熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設新築
（建築工事）

実施設計図書

o+h・産紘設計JV

No.	図面タイトル	縮尺(A1)	縮尺(A3)
No.	図面タイトル	縮尺(A1)	縮尺(A3)
共001	図面リスト	-	-
共002	建物概要書・敷地案内図	-	-
A001	特記仕様書1	-	-
A002	特記仕様書2	-	-
A003	特記仕様書3	-	-
A004	特記仕様書4	-	-
A005	特記仕様書5	-	-
A006	特記仕様書6	-	-
A007	メーカーリスト	-	-
A008	現況図	1:400	1:800
A009	現況断面図キープラン	1:500	1:1000
A010	現況断面図	1:500	1:1000
A011	造成計画図	1:400	1:800
A012	造成計画断面図1	1:400	1:800
A013	造成計画断面図2	1:400	1:800
A014	造成計画断面図3	1:400	1:800
A015	敷地面積求積図	1:400	1:800
A016	配置図	1:400	1:800
A017	芯線定義図-(配置図)	1:400	1:800
A018	芯線定義図-(平面図)	1:200	1:400
A019	屋根定義図	1:200	1:400
A020	RC躯体芯線定義図(展示室2,3)	1:100	1:200
A021	RC躯体芯線定義図(展示室1)	1:100	1:200
A022	RC躯体芯線定義図(企画展示室)	1:100	1:200
A023	求積図	1:250,1:500	1:500,1:1000
A024	仕上特記仕様書	-	-
A025	仕上表	-	-
A101	平面図	1:250	1:500
A102	屋根伏図	1:250	1:500
A103	立面図	1:250	1:500
A104	断面図	1:100	1:200
A201	標準詳細図1-床／壁	1:5	1:10
A202	標準詳細図2-屋根	1:10	1:20
A203	タイル屋根割付図	図示×2	図示
A301	矩計図1-1	1:25	1:50
A302	矩計図1-2	1:25	1:50
A303	矩計図2	1:25	1:50
A304	矩計図3	1:25	1:50
A305	矩計図4	1:25	1:50

No.	図面タイトル	縮尺(A1)	縮尺(A3)
A311	平面詳細図1	1:50	1:100
A312	平面詳細図2	1:50	1:100
A313	平面詳細図3	1:50	1:100
A314	平面詳細図4	1:50	1:100
A315	平面詳細図5	1:50	1:100
A316	平面詳細図6	1:50	1:100
A317	平面詳細図7	1:50	1:100
A318	平面詳細図8	1:50	1:100
A319	平面詳細図9	1:50	1:100
A321	ピット図1	1:100	1:200
A322	ピット図2	1:100	1:200
A323	ピット図3	1:100	1:200
A324	目地割図	1:250	1:500
A325	RC多角形型枠範囲図	1:250	1:500
A331	天井伏図1	1:100	1:200
A332	天井伏図2	1:100	1:200
A333	天井伏図3	1:100	1:200
A334	小梁伏図1	1:100	1:200
A335	小梁伏図2	1:100	1:200
A336	小梁伏図3	1:100	1:200
A337	垂木伏図1	1:100	1:200
A338	垂木伏図2	1:100	1:200
A339	垂木伏図3	1:100	1:200
A341	外部展開図1	1:100	1:200
A342	外部展開図2	1:100	1:200
A351	内部展開図キープラン	1:200	1:400
A352	内部展開図1	1:50	1:100
A353	内部展開図2	1:50	1:100
A354	内部展開図3	1:50	1:100
A355	内部展開図4	1:50	1:100
A356	内部展開図5	1:50	1:100
A357	内部展開図6	1:50	1:100
A358	内部展開図7	1:50	1:100
A401	建具特記仕様書	-	-
A402	建具キープラン	1:250	1:500
A403	建具表1	1:100	1:200
A404	建具表2	1:100	1:200
A405	建具表3	1:100	1:200
A406	建具詳細図1	1:25,1:5	1:50,1:10
A407	建具詳細図2	1:1	1:2
A408	建具詳細図3	1:1	1:2
A409	建具詳細図4	1:1	1:2

No.	図面タイトル	縮尺(A1)	縮尺(A3)
A410	建具詳細図5	1:2	1:4
A411	建具詳細図6	1:2	1:4
A412	建具詳細図7	1:15	1:30
A413	建具詳細図8	1:1.5	1:3
A414	建具詳細図9	1:1.5	1:3
A415	建具詳細図10	1:2	1:4
A501	トイレ詳細図1	図示×2	図示
A502	トイレ詳細図2	図示×2	図示
A503	トイレ詳細図3	図示×2	図示
A504	トンネル詳細図	1:25	1:50
A505	展示室3　天井詳細図	1:25	1:50
A506	湧水側溝詳細図	図示×2	図示
A601	雑詳細図1	図示×2	図示
A602	雑詳細図2	図示×2	図示
A603	雑詳細図3	図示×2	図示
A604	雑詳細図4	図示×2	図示
A611	事務室　壁・天井下地詳細図	図示×2	図示
A612	受水槽基礎・フェンス詳細図	1:25	1:50
A613	ベンチ詳細図	図示×2	図示
A701	家具特記仕様書	-	-
A702	家具キープラン	1:250	1:500
A703	家具図1	1:20	1:40
A704	家具図2	1:20	1:40
A705	家具図3	1:20	1:40
A801	サイン特記仕様書	-	-
A802	サインキープラン	1:300	1:600
A803	サイン詳細図1	図示×2	図示
A804	サイン詳細図2	図示×2	図示
A901	外構図	1:15,1:250	1:30,1:500
A1001	色彩計画表	-	-
A1101	(参考)仮設計画図	1:400	1:800

工事名	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設新築実施設計委託	共同企業体名称	o+h・産紘設計JV	代表者	大西麻貴＋百田有希／o＋h	〒103-0007　東京都中央区日本橋浜町3-10-1 一級建築士事務所　東京都知事登録第59514号	TEL&FAX:03-6264-9876 一級建築士第367943号　百田有希	図面名	図面リスト	縮尺	A3　-	日付		No. 共 001

1. 業務概要

業務名称	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設（仮称）新築工事
建築場所	阿蘇郡南阿蘇村河陽地内
主要用途	博物館
工事種別	新築
工期	令和4年4月-令和5年3月
業務範囲	建築工事、設備工事（電気、機械、引き込み設備）
関連業務	熊本地震震災ミュージアム中核拠点（旧東海大学阿蘇キャンパス）外構基本設計業務
	熊本地震震災ミュージアム中核拠点（旧東海大学阿蘇キャンパス）内体験・展示施設 展示設計業務

2. 敷地状況

敷地面積	約29,400 m2
用途地域	指定なし（都市計画区域外）
容積率等	建蔽率:指定なし　容積率:指定なし
防火地域	なし
高さ制限	なし
日影規制	なし
周辺道路	東側：南阿蘇村道銭瓶・炭窯線を整備予定
その他規制	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律:特別特定建築物（適合義務）
	省エネ法：特定建築物（適合性判定対象）
	熊本県高齢者、障害者等の自立と社会的活動への参加の促進に関する条例：特別特定建築物（適合義務）
	阿蘇くじゅう国立公園計画

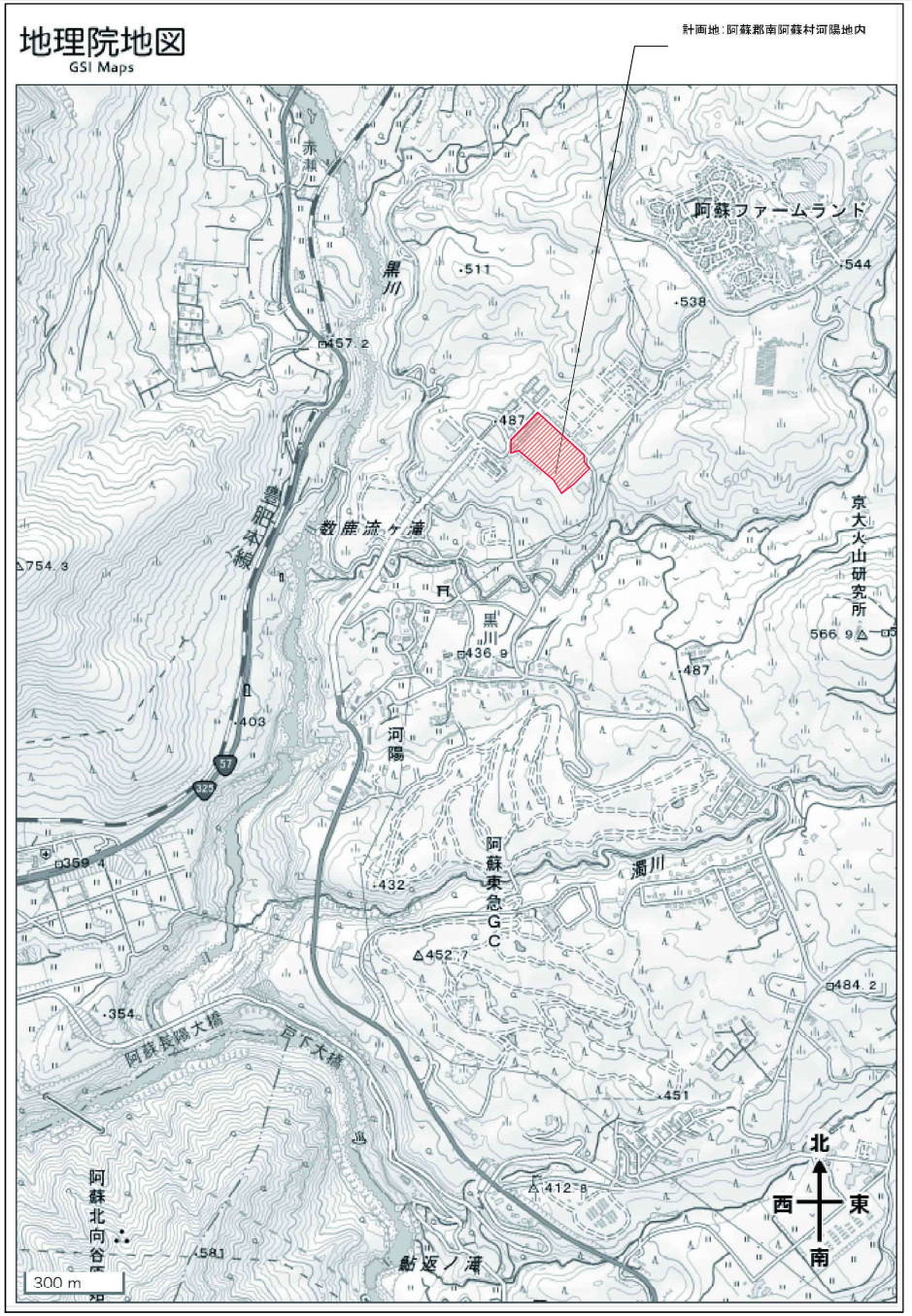
3. 建築概要

構造・規模	木造＋RC造（一部鉄骨造）・1階建て	
基礎	布基礎	
最高高さ	GL+8600	
軒高さ	GL+8150	
建築基準法	特殊建築物	(3) 博物館
	耐火建築物、準耐火建築物	その他の建築物
	内装制限	なし
	排煙設備	設置、又は告示による免除
消防法	特定防火対象物	第8項　博物館
	無窓階	なし

4. 面積

建築面積	1,481.48 m2
延床面積	1,210.29 m2

7. 案内図



工事名	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設新築実施設計委託	共同企業体名称	o+h・産紘設計JV	代表者	大西麻貴＋百田有希／o+h	〒103-0007　東京都中央区日本橋浜町3-10-1 一級建築士事務所　東京都知事登録第59514号	TEL&FAX:03-6264-9876 一級建築士第367943号　百田有希	図面名	建物概要書 ・ 敷地案内図	縮尺	A3　-	日付	No. 共002

熊本県建築工事特記仕様書

Ⅰ 工事概要

1 工事名称　熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設新築工事

2 工事場所　阿蘇郡南阿蘇村河陽地　　地内

3 建物概要

	建物名称	構造	階数	延面積（㎡）	消防法施行令別表第1区分	備考
1	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設棟	木造＋RC造（一部鉄骨造）	地下1階、地上1階、1階建て	1，210.29	第8項博物館	
2						
3						
4						

※ 建築基準法に基づき定められた風速（V0）　（ 32　m/sec　）
※ 建築基準法に基づき定められた積雪荷重　（ 49cm,980N/m2 ）

※ 地表面粗度区分　・ Ⅰ　・ Ⅱ　・ Ⅲ　・ Ⅳ

4 工事区分　（電気設備工事）　○印を付したもの

工事区分＼建物名	1	2	3	4		屋外
1	電灯・コンセント設備					
2	幹線・動力設備					
3	電熱設備					
4	雷保護設備					
5	受変電設備					
6	非常用発電設備					
8	構内情報通信網設備					
9	電話・構内交換設備					
10	拡声設備					
11	映像・音響設備					
12	誘導支援設備					
13	時計設備					
14	テレビ共同受信設備					
15	テレビ電波障害防除設備					
16	監視カメラ設備					
18	入退室管理設備					
19	自動火災報知設備					
20	自動閉鎖・非常設備設備					
21	中央監視制御設備					
22	防犯設備					
23	電気時計設備					
24	外灯設備					
25	構内配電幹線					
26	構内弱電幹線					
27	接地工事					

5 工事区分　（機械設備工事）　○印を付したもの

工事区分＼建物名及び屋外	1	2	3	4		屋外
1	空気調和設備					
2	換気設備					
3	排煙設備					
4	自動制御設備					
5	衛生器具設備					
6	給水設備					
7	排水設備					
8	給湯設備					
9	消火設備					
10	厨房設備					
11	ガス設備					
12	冷化槽設備					
13	昇降機設備					
14	撤去工事					

6 設備概要　（機械設備工事）
（本工事における工事種目ごとの概要を示すものであり仕様を規定するものではない　○印を付したものが該当項目となる）

空気調和方式	・ ダクト方式　（ ・ 中央　・ 各階ユニット　） ・ FCU方式 ・ FCU＋ダクト併用方式　　・ パッケージ方式
中型熱源機器	・ 空気熱源ヒートポンプユニット　　・ 吸収冷温水機　　・ 吸収冷温水機ユニット ・ パッケージ型空気調和機　　・ マルチパッケージ型空気調和機　　・ ガスエンジンヒートポンプ式空調調和機
換気設備	機械換気　（ ・ 有　・ 無 ）
排煙設備	機械排煙　（ ・ 有　・ 無 ）
自動制御設備	・ 電気式　・ 電子式　・ デジタル式
給水設備	・ 水道直結方式　　・ 高置タンク方式　（ ・ 上水　・ 井水　・ 中水 ） ・ ポンプ直送方式　（ ・ 上水　・ 井水　・ 中水 ）　　・ 増圧ポンプ方式
排水設備	建物内の汚水と雑排水　（ ・ 分流　・ 合流 ） ポンプ排水　（ ・ 台 ）（ ・ 雨水　・ 雑排水　・ 雨水 ）・ 無 ） 汚水放流先　（ ・ 公共下水道　・ し尿浄化槽 ） 雑排水放流先　（ ・ 公共下水道　・ し尿浄化槽 ）
消火設備	・ 屋内消火栓　（ ・ 1号　・ 2号 ）・ 屋外消火栓 ・ 連結送水　・ 連結散水　・ 当直式　・ スプリンクラー　・ ハロゲン化物消火 ・ 二酸化炭素消火　・ 泡消火系消火　・ フード等用固着自動消火
ガス設備	・ 都市ガス　（ 供給業者名　　種別　　発熱量　　MJ/m3 ） ・ 液化石油ガス

※注意事項
① 工事用電・機材、建設副産物等の運搬機もしないこと。
② 通信端末を付ないている資材納入業者から、資材を購入しないこと。
③ 資材等の過剰確保を防止するため、資材の購入等に当たっては、資材納入業者等の利益を不当に害することの無いようにすること。
④ さし枠の製業又は物品積載装置の不正改造をしたダンプトラック等が、工事現場に出入りしないようにすること。
⑤ 「土砂等を運搬する大型ダンプ車両による交通事故の防止等に関する特別措置法」の目的に鑑み、法第12条に規定する関係者の遵守状況を踏まえ同事業への加入者の促進の促進に努めること。
⑥ 下請け契約の相手方又は資材納入業者の選定にあたっては、交通安全に関する配慮に欠けるもの又は業務に関しダンプトラック等によって悪質かつ重大な事故を発生させたものを排除すること。
⑦ ①から⑥の事項につき、下請け契約における安全者を指導すること。

Ⅱ 特記事項

1 本工事の契約は、関係及び付属書に基づくものとし、添付の工事内訳書は参考とする。
2 図面及び仕様書に記載されている製造所及び商品名は、製品の選定を示すものであり参考とする。
3 契約締結後有り届を速やかに提出すること。現場代理人及び主任（監理）技術者通知書には、受注者に所属し、かつ、必要資格を有することが確認できる書類を添付すること。
4 建築業退職金共済制度の「掛金収納書」及び建設労災補償共済制度の「加入証明書」（写し）もしくは労働災害補償責任保険等加入を証する書類を契約後1月以内に提出すること。なお、建設業退職金共済制度の「掛金収納書」提出の必要がない場合は、建設業退職金共済証紙受け納品届を提出すること。
5 特記仕様書に記載されている監督員の承諾、監督員との協議等の要領については、Ⅰ事監理要領に定めるところによる。
6 使用材料及び下請業者については、県産資材、県内企業及び誘致企業の採用に努めること**県産資材を使用しない場合は、「県産資材等不使用状況報告書」を監督職員に提出し、**承諾を得ること。なお、県産資材、県内企業及び誘致企業とは、以下に該当するものをいう。
（1）県産資材とは、私内で采出、生産又は製造されたものをいう。
（2）県内企業とは、県内に主たる営業所を置く建設事業者をいう。
（3）誘致企業とは、県内に誘致された企業をいう。
7 本工事は電子納品対象工事とする。
8 暴力団員等による不当要求又は工事妨害（以下「不当介入」という。）を受けた場合は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。
なお、適守していないことが判明した場合は、指名停止等の措置を行うなど、厳正に対処する。
① 不当介入を受けた場合は、報告としてこれを拒否し、不当介入があった時点で速やかに警察署数第へ通報し、捜査上必要な協力を行うこと。
② 警察に通報等を行った内容について書面により速やかに発注者に報告すること。また、不当介入を受けたことにより、工程に遅れが生じる等の被害が生じた場合は、発注者と協議を行うこと。

Ⅲ 工事仕様

1 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成31年版）」、「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）（平成31年版）」及び「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（平成31年版）」による。
なお、公共住宅建設にあっては、国土交通省住宅局住宅総合整備課監修「公共住宅建設工事共通仕様書（平成28年度版）」を併せて適用する
2 項目は、番号の前に○印の付いたものを適用する。
3 特記事項は、○印の付いたものを適用する。○印の付かない場合は、空印の付いたものを適用する。○印と空印の付いた場合は、両方を適用する。
4 明快寸法の単位は、特記した場合を除きミリメートルとする。
5 各章の特記事項欄にある（　）書きは新築工事標準仕様書の章・節・項番号である。

章	項目	特記事項
① 各章共通事項	① 適用基準等	・ 建築工事標準詳細図　（平成28年版）　国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修 ・ 構内舗装・排水設計基準　（平成27年版）　同上 ・ 機械設計標準図　（平成12年版）　国土交通省大臣官房官庁営繕部整修 ・ 公共建築改修工事標準仕様書（建築・電気・機械設備工事編）　（平成31年版）　同上 ・ 公共建築木造工事標準仕様書　（平成31年版）　同上 ・ 公共建築設備工事標準図（電気・機械設備工事編）　（平成31年版）　国土交通省大臣官房官庁営繕部整備 ・ 建築物解体工事共通仕様書　（平成31年版）　同土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ・ 鉄筋コンクリート工事標準図　（平成17年版）　熊本県建築士事務所協会発行 ・ 鉄骨工事標準図　（平成17年版）　熊本県建築士事務所協会発行 ・ 公共住宅改修工事共通仕様書（初版）　（初版）　公共住宅事業者等連絡協議会編集 ・ 鉄筋コンクリート造のひび割れ対策（設計・施工）指針・同解説　（平成13年改定版）　日本建築学会　編
	② 電子納品に関する事項	（電子納品に関する基準） 電子納品に関する基準は、「熊本県電子納品運用ガイドライン※1」（以下、熊本県ガイドライン）による。 （電子納品） 電子納品とは、各業務段階の最終成果を電子データで納品することをいう。ここでいう電子データとは、熊本県ガイドラインに示すファイルフォーマットに基づいて作成されたものを指す。なお、詳細における署名又は押印の扱い等については、別途、監督員と協議するものとする。 （電子データの貸与） 本工事では、設計図CADデータを貸与する。（CADデータの著作者は設計者） なお、貸与されたCADデータを当該工事における施工図又は完成図の作成のため以外に使用してはならない。 （電子納品に要する経費） 電子納品に要する費用は共通仮設費に含まれている。 ※1：熊本県ホームページの「木造ー木造等共通仕様書」の電子納品のデータを参照（ダウンロード可） 熊本県HP　https://www.pref.kumamoto.jp/kiji_1840.html
	③ 工事実績情報の登録（工事カルテ）	※ 要　（提出先：（ 財）日本建設情報総合センター）　・ 不要　（1．1．4） 工事実績情報サービス（CORINS）
	④ 品質計画	※ 品質計画については、監督員の承諾を受けること。　（1．2．2）
	⑤ 電気保安技術者	○ 適用する　・ 適用しない　（1．3．3）
	⑥ 施工条件	※ 現場説明書による　・ 関示による　（1．3．5）
	⑦ 発生材の処理等	引渡しを要するもの　（　）　（1．3．11） 引渡し場所　※ 構内　・（　） 特別管理産業廃棄物　・ 有り　（　） 廃棄物の搬出方法等　分別解体等及び特定建設資材の再資源化等について適切な処置を行ったうえで、下記の場所に搬出することとし、「建設副産物のリサイクル計画書」の建設発生材処理フローにより適切に処理すること。 ①受入場所　※ 処分場　（　）　・ 自社処分 原則として再資源化施設とする ②仮置き等　必要な場合は、法律に違反しないように適切に処理すること。 現場において再利用を図るもの、再資源化を図るもの　（　） 建設廃棄物処理実施計画書、建設廃棄物処理実績集計表及びマニフェスト伝票の写し等を提出すること。 建設副産物情報交換システムに登録し証明書を提出する。 登録に関する問い合わせ先：（一社）日本建設情報総合センター 内 建設副産物情報センター　TEL:(03)3505-0410　FAX:(03)3505-0620 工事着工時に再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を提出し、工事完了時に再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書を提出すること。 自社処分　自社処分の場合で、処分が困難となった時は、監督員と協議すること。 ・ 建設リサイクル法　竣工時に、再資源化等報告書を監督員に提出すること。 産業廃棄物税　本工事で発生する建設廃棄物のうち、県内の最終処分場に搬入する建設廃棄物については、産業廃棄物の処理に係る税（熊本県産業廃棄物処理税）が課税されるので適正に処理すること。 ・ 木工事では、産業廃棄物の最終処分における熊本県内産業廃棄物税相当額を見込んでいる。 型枠の塗材、塗料の空缶等については「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、元請業者の責任において適正に処理すること。 水銀含有物（蛍光管等）については電気設備工事特記仕様書（その2）「発生材の処理等」に基づき適正に処理すること。 フロンガス合石物（空調機器等）については機械設備工事特記仕様書（その2）「発生材の処理等」に基づき適正に処理すること
	⑧ 再生資材活用	受注者は、熊本県グリーン購入推進方針に適合するリサイクル建設資材の活用に努めるものとする。 受注者は、リサイクル建設資材を使用する場合、工事材料確認後書類（竣工時に品質・性能に関する書類に加え、以下の書類を提出すること。 ・熊本県グリーン購入推進方針別記基準等適合証作言 ・有害物質の溶出・含有等に関する証明書 ・再生材料供給証明書 ［例外1］ 次の資材については、上記書類の提出を求めない。 ・コンクリート塊又はアスファルト・コンクリート塊のみを再生材料として使用した「再生加熱アスファルト混合物」及び「再生路盤材」 ・高炉セメント ・エコマーク認定製品 ［例外2］ 該当する項目に係る有害物質の溶出及び含有、アスベスト（石綿）の含有、水素イオンの溶出、硫化水素等の発生に関する検査を不要としている資材については、「有害物質の溶出・含有等に関する証明書」の提出は求めない。
	⑨ 再生資材の利用	再生資材の利用又は現場内で流用をする場合は、十木部で定めた「建設副産物の再生利用指針」による。 対象資材 ： コンクリート塊、アスファルトコンクリート塊、建設発生木材
	⑩ 建設発生土の利用	建設発生土が発生し、又は建設発生土を利用する場合は、十木部で定めた「建設発生土の利用及び処理指針」による。
	11 建設汚泥処理土の利用	建設汚泥を再生した建設汚泥処理土の利用は、十木部で定めた「建設汚泥の処理と建設汚泥処理土の利用指針」による。

① 各章共通事項	⑫ 技能士	適用工事種別（　）内は、適用技能士　（1．5．2） ○ 鉄筋工事（1級鉄筋技能士） ○ コンクリート工事（○ 1級方官技能士：○ 1級型枠施工技能士） ○ 鉄官工事（1級ヒ石技能士）　・ ブロック及びALCパネル工事（・1級ブロック建築技能士） ○ 防水工事（1級防水施工技能士：（改質アスファルトシート防水工事作業、シーリング防水工事作業） ・ 石工事（・1級石工技能士　・1級石材施工技能士） ○ タイル工事（1級タイル張り技能士）　○ 木工事（1級建築大工技能士） ○ 屋根及び占い工事（○ 1級建築板金技能士：・1級ルート施工技能士） ○ 金属工事（○ 1級人官仕上げ施工技能士：○ 1級内装仕上げ施工技能士） ○ 左官工事（1級左官技能士） ○ 塗装工事（1級塗装技能士：（　塗装作業）） ○ 建具工事（○ 1級サッシ施工技能士：○ 1級ガラス加工技能士） ○ 内装工事（1級内装仕上げ施工技能士（　プラスチック系床仕上げ工事作業、ボード仕上げ工事作業）） ・ 内装工事（1級表装技能士：（　　作業）） ・ 畳敷工事（1級造園技能士） ・ 設備工事：・ 配管技能士：　・ 冷凍空気調和機器施工技能士：　・ 熱絶縁施工技能士：　・ 建築板金技能士） 技能士は、資格を証明する資料を監督員に提出すること。
	⑬ 特別な材料の工法	標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。
	⑭ 建設工事使用機械等	※ 建設工事による排出ガス対策型建設機械を使用すること。 ※ 建築工事に伴う騒音振動対策技術指針に基づき、低騒音型建設機械を使用すること。 ※ 建設機械等のアイドリングストップを実施し、その点検を行うこと。
	⑮ 設計GL	※ 図示による。　・ 現状地盤の平均高さとし、監督員の指示による。
	⑯ 既存部分等への処置	工事施工に際し、既存部分を汚染又は損傷した場合は監督員に報告するとともに承諾を受けて速やかに原状に復して補修すること。
	⑰ 他工事との取合い	施工範囲　別表ー1 による。 施工順　設備機器の設置、取合い などが検討できる施工図を提出し、監督員の承諾を受けること。
	⑱ 建築材料 設備機器等	ホルムアルデヒド放散量 木工事に使用する建築材料、設備機器等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとすること。また、再生資源利用できるものを積極的に使用すること。 ※ F☆☆☆☆　・（　）
	⑲ 化学物質の濃度測定	○ 行う。　・ 行わない。　（1．5．9） 厚生労働省が定める化学物質の濃度が指針値以下であることを確認し、報告書を監督員に提出すること。 対象室名　：（ 諸小室1，2，会議諸，小室・女性ラウンジ，事務室，倉庫　） 測定法　・ アクティブ型　○ パッシブ型　・ その他
	⑳ 工事写真等	撮影箇所及び撮影方法は、「熊本県建築工事写真撮影要領」による。 着工前、工事中、竣工時及び完成写真用写真の撮影は、デジタルカメラを使用すること。また、完成写真は、下請業者の撮影とする。 ・ 監督員の承諾を受けた写真専門業者　○ 監督員の承諾を受けた撮影者
	㉑ 完成図	貸与した原図（電子データを含む）に変更内容を加筆訂正し、下記のものを添えて監督員に提出すること。（1．7．1　1．7．2） また、建設副産物、温泉ある場合、その受領書（写）を監督員に提出すること。 施工報告書（A4）1部、2つ折製本（A4）1部、2つ折製本（原図）1部、A4版折込製本（原図）1部 試験成績表、保証書、取扱説明書等 電子データについては、熊本県電子納品運用ガイドラインの仕様により作成し、納品を行うこと。
	㉒ 竣工図	熊本県電子納品運用ガイドラインの仕様により作成し、納品するものとする。 "当該建物の設有する施工図等の著作権に係る使用権は、当該建物物に関り発注者に移譲する。
	㉓ 保全に関する資料	※ 提出する。　・ 提出しない。　（1．7．1　1．7．3） 提出部数　※ 2部　・（　）部
	㉔ 保険等	熊本県公共工事請負契約約款第50条第1項により、次の保険等（その他これに準ずるものを含む）に付さなければならない。 （1）　保険の種別　・ 火災保険又は建設工事保険 ・ 組立保険（請負業者損害賠償責任担保特約付き） （2）　保険の目的物　工事目的物及び工事材料（支給材料を含む）（仮設備物等特約を含む） （3）　保険の加入期間　※ 工事着手後（原則とする）速やかに加入し、工期末より30日間以上 ・ その他（　） （4）　保険金額　※ 原則として請負金額に相当する金額 ・ その他（　）
	㉕ 安全施工実施対策	※ 建築工事安全施工技術指針にたがい、工事の安全確保に努めるとともに、安全・訓練等の実施状況報告書を監督員へ提出すること。
	㉖ 官公庁への諸手続き等	関係官庁、電力会社等への手続きは、すべて受注者がこれを代行し、これに要する費用は受注者の負担とする。ただし、特記ある事項は別途とする。（1．1．3）
② 仮設工事	1 既存部分の養生	養生方法　※ ビニールシート等による。　・（　） 固定された備品、机、ロッカー等の移動 ※ 行わない。　・ 行う（関示による） 既存家具等の養生　・ ビニールシート等による。　・（　）
	② 監督員事務所	・ 設ける　※ 設けない　（2．3．1） 面積規模　（　）㎡程度　　備品については、監督員の指示による。
	③ 工事用水	構内既存の施設　※ 利用できる（受有償・無償）　○ 利用できない
	④ 工事用電力	構内既存の施設　・ 利用できる（受有償・無償）　※ 利用できない
	⑤ 干すり先行足場	足場を設ける場合は、「干すり先行（法）に関するガイドライン」について（財）労働安全衛生センター発行の「干すり先行（法等に関するガイドライン」に準拠し、「働きやすい安心感のある足場に関する各等に適合する干すり、中古入及び輸入の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「干すり先行（法による足場の組立て等に関する基準」により行うこと。
③ 土工事	① 掘削及び盛土	種別　・ A種　※ B種　・ C種　・ D種　（3，2，3）（表3．2．1）
	② 建設発生土の処理	※ 構外指示の場所　（3．2．5） 受け入れ場所　（　） 受け入れ場所での処置　（ ・ 敷きならし　※ たい積　） 積み高制限　（　）km 上記に示す受入れ場所・距離は参考であり、実施にあたっては監督員と協議のうえ決定する ○ 構内指示の場所（ ・ 敷きならし　○ たい積　）

R2.4.1 版

工事名	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設新築実施設計委託	共同企業体名称	o+h・産総設計JV	代表者	大西麻貴＋百田有希／o＋h	〒103-0007　東京都中央区日本橋浜町3-10-1 一級建築士事務所　東京都知事登録第59514号	TEL&FAX:03-6264-9876 一級建築士第367943号　百田有希	図面名	特記仕様書 1	縮尺	A3　-	日付		No.	A001

④ 地業工事

① 支持地盤

・杭基礎 (4.3.4～5)(4.5.4～5)
支持地盤の種類及び位置(基礎ぐいの先端の位置含む)
・ 図示による ・ ( )

⊙ 直接基礎
支持地盤の種類及び位置(基礎底部の位置含む)
⊙ 図示による ・ ( )
長期設計支持力度
⊙ (51) kN/m2 ・ ( )

・地盤の載荷試験 (4.2.4)
⊙ 行わない
試験の位置, 方法等は図示による

② 既成コンクリート杭地業

種類 (4.3.3)
・ 遠心力高強度プレストレストコンクリート杭(PHC杭)
・ 外殻鋼管付きコンクリート杭(SC杭)
SC杭の鋼管材料 ・SKK400 ・SKK490
・ プレストレスト鉄筋コンクリート杭(PRC杭)
・ ( )

試験面
・ あり 孔径はオーガー径とする 位置等は図示による
試験杭の施工は試験杭の施工に先立ち行う
・ なし

寸法, 継手, 性能等(種別, 種類, 性能及び曲げ強度区分) (4.2.2)(4.3.3)

		種類	板厚 (mm)	杭径 (mm)	継手数	長期設計支持力 (kN/本)	備考
試験杭	上杭 中杭 下杭						
本杭	上杭 中杭 下杭						

試験杭の施工 ※本杭の施工に先立ち行う ・ ( ) (4.2.2)
試験杭の位置, 本数 ※最初の一本 ・ 図示による

杭先端部形状 (4.3.3)
・ 閉鎖形 ・ 半閉鎖形 ・ 開そく形 ・ ( )

施工方法 (4.3.3～5)
・ セメントミルク工法 (4.3.4)
アースオーガーの支持地盤への掘削深さ
・ 図示による ・ ( )
杭の支持地盤への根入れ深さ
・ 図示による ・ ( )
杭の精度
水平方向の位置ずれ ・ 杭径の1／4かつ100mm以下 ・ ( )
杭の傾斜 ・ 1／100以内 ・ ( )

・ 特定埋込杭工法 (4.3.5)
・ H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で
α＝250を採用できる工法 図示による
・ 上記以外の特定埋込杭工法 図示による

工法
・ プレボーリング拡大掘削め工法
・ 中掘り拡大掘削め工法
・ ( )
杭周固定液
・ 使用する ・ 使用しない

杭の支持地盤への根入れ深さ
・ 図示による ・ ( )

杭の精度
水平方向の位置ずれ ・ 杭径の1／4かつ100mm以下 ・ ( )
杭の傾斜 ・ 1／100以内 ・ ( )

杭継手工法
・ アーク溶接継手 (4.3.6)(7.2.5)
・ 種仕 4.3.6による
溶接材料
・ 種仕 7.2.5(1)(2)による ・ 種仕 7.2.5(1)(2)以外( )

・ 無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)
I法 ※ 審査(評定又は大臣認定)を受けた工法
・ ( )
検査 ※ 審査(評定又は大臣認定)により定められた項目
・ ( )
施工 ※ 審査(評定又は大臣認定)された施工管理基準による
・ ( )

杭頭の処断 (4.3.8)
※ 無し
・ 有り
処理方法
・ 図示による ・ ( )
杭頭の中詰め材料
※ 基礎のコンクリートと同調合のもの ・ ( )

④ 地業工事

③ 場所打ちコンクリート杭地業

杭径、長さ、仕様等
・ 図示による ・ ( )

材料その他
普通 ・ 図示による
鉄筋の最小かぶり厚さ ・ 図示による
セメントの種類
※ 高炉セメントB種 ・ ( ) (4.5.4)(6.3.1)
コンクリートの種別 (4.5.4)(表4.5.1)
・ A種 ・ B種
・ 審査(評定又は大臣認定)された内容による
コンクリートの設計基準強度 ( )N/mm2 (4.3.4～6)
スランプ
・ ※18cm
構造体強度補正値(S) (4.5.4)
・ 3N/mm2
・ 審査(評定又は大臣認定)された内容による
・ ( )

掘削工法 (4.5.1)(4.5.5～6)
・ アースドリル工法
安定液 ・ 使用する ・ 使用しない
・ リバース工法
・ オールケーシング工法
孔内の水張り ・ 行う ・ 行わない

併用する工法
・ 場所打ち鋼管コンクリート杭工法 図示による
鋼管巻き材料 ・SKK400 ・SKK490 ・ ( )
・ 拡底杭工法 図示による
公定経 ・使用する ・使用しない
・ ( )

試験杭 (4.2.2)(4.5.5～6)
試験杭の施工 ※本杭の施工に先立ち行う ・ ( )
試験杭の位置, 本数 ※最初の一本 ・ 図示による

孔壁測定 (4.5.5～6)
・ 行う
測定方法、測定箇所は図示による
・ 行わない

杭の支持地盤への根入れ深さ
・ 図示による ・ ( )

杭の精度
水平方向の位置ずれ ・ 100mm以下 ・ ( )
杭の傾斜 ・ 1／100以内 ・ ( )

工法
・ 浅層混合処理工法
適用範囲, 仕様及び詳細、試験は図示による
長期設計支持力
・( )kN/m2 ・ ( )

・ 深層混合処理工法
適用範囲、仕様及び詳細、試験は図示による
長期設計支持力
・( )kN/m2 ・ ( )

④ 地盤改良
(セメント系固化材を用いた工法による改良)

⑤ 置換コンクリート地業
(ラップルコンクリート地業)

形状、支持地盤、仕様
・ 図示による

長期設計支持力
・ ( )kN/m2 ・ ( )

セメントの種類 (6.3.1)
・ 高炉セメントB種 ・ ( )
コンクリートの設計基準強度 ( )N/mm2
構造体強度補正値(S)－( )N/mm2

⑥ 被覆化対策

工法 ・( )
仕様、範囲、詳細、試験等
・ 図示による

⑦ 砂利地業

材料 (4.6.2)
※ 再生クラッシャラン ・ 切込砂利及び切込砕石

厚さ及び使用範囲 (4.6.3)

厚さ	使用範囲
※20	基礎スラブ下、基礎梁下、十間コンクリート下、土に接するスラブ下
・	

⑧ 捨てコンクリート

コンクリートの仕様 (4.6.4)(6.14.1～3)
※ 無筋コンクリートによる ・ ( ) (6.14.1～3)

セメントの種類
※ 高炉セメントB種 ・ ( ) (6.3.1)

厚さ及び使用範囲 (4.6.4)

厚さ	使用範囲
※50	基礎スラブ下、基礎梁下
・	

⑨ 床下防湿層

施工範囲 (4.6.5)
※ 建物内の土間スラブ及び土間コンクリートの直下(ピット下を除く)
・ ( )

材料
※ ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上 ・
( )

防湿層の位置
・ 図示による ⊙ (床下断熱材下)

⑤ 鉄筋工事

① 鉄筋の種類

鉄筋の種類 (5.2.1)(表5.2.1)

種類の記号	呼び名(mm)	備考
⊙ SD295A	D10,D13,D16	
・ SD345		
・		
・		

形状等 (5.2.2)

種類	種類の記号	subの形状、寸法、鉄線の径(mm)	使用部位
・ 溶接金網			
・ 機械式継手			

継手方法等 (5.3.4)(5.5.2)

部位	継手方法	呼び名(mm)
柱、梁の主筋	※ 重ね継手	
耐力壁の鉄筋	※ 重ね継手 ・	
その他の鉄筋( )	※ 重ね継手 ・	

主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ (5.3.4)(表5.3.2)
・ 図示による

継手位置図
⊙ 図示による

② 鉄筋の定着の方法及び長さ

鉄筋の定着方法 (5.3.4)
⊙ 図示による

鉄筋の定着長さ (5.3.4)(表5.3.4)
⊙ 図示による ・ ( )

⑤ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔
(溶接金網含む)

最小かぶり厚さ(日連底から算出を行う) (5.3.5)(表5.3.6)
⊙ 図示による ・ ( )

柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無
・ 有り 適用箇所( )
最小かぶり厚さ
・ 鉄筋径の1．5倍以上
・ ( )
⊙ 無し

経量コンクリートで主に接する部分
⊙ 無し
・ 有り 適用箇所( )
・ 図示による
・ ( )

耐久性上不利な部分(監理等を受けるおそれのある部分等)
⊙ 無し
・ 有り 適用箇所( )
・ 図示による
・ ( )

鉄筋相互のあき(特殊な鉄筋を除く) (5.3.5)(図5.3.6)
⊙ 図示による
・ ( )

・ 機械式継手
使用箇所 (5.5.2)
・ 図示による ・ ( )
性能(H12建告第1463号に適合するもの) (5.5.2)
・ A級 ・ ( )
機械式継手の種類( ) (5.5.2)
鉄筋相互のあき (5.3.5)
・ 図示による ・ ( )
品質の確認方法
・ 図示による ・ ( )
不良となった継手の修正方法等
・ 図示による ・ ( )

・ 溶接継手
使用箇所
・ 図示による ・ ( )
性能(H12建告第1463号に適合するもの) (5.6.3)
・ A級 ・ ( )
溶接継手の工法( ) (5.6.3)
鉄筋相互のあき (5.3.5)
・ 図示による ・ ( )
品質の確認方法 (5.6.3)
・ 図示による ・ ( )
不良となった継手の修正方法等 (5.6.3)
・ 図示による ・ ( )

⑥ 特殊な鉄筋継手

⑦ 各部配筋

各部配筋 (5.3.7)
※ 図示による ・ ( )

⑧ 圧接完了後の試験

外観試験 (5.4.10)
※ 行う (全数)
抜取試験
※ 超音波探傷試験 ・ 引張試験

⑨ 普筋

⑩ 最上階柱頭補強

⑪ 片持ちスラブの出隅部の補強配筋
(出隅受け部分の補強筋を含む)

⑫ 吸排口部の補強

⑬ 梁貫通孔の補強

⑭ 基礎梁下端の継手

15 機械吊上げ用フック

⑥ コンクリート工事

① コンクリートの種類及び強度

普通コンクリートの設計基準強度 (6.2.2)

設計基準強度 (Fc) N/mm2	種別	⊙ 18	・ 21	⊙ 24	・ 27	
普通コンクリート	部位	捨てコン		左記を除く部位		
軽量コンクリート	部位					

軽量コンクリートの設計基準強度 (6.2.2)

設計基準強度 (N/mm2)	適用箇所
・24	
・	

構造体強度補正値(S) ・ ※標準(仕様書6.3.2)による

スランプの値(単位:cm) (6.2.4)(表6.2.2)

打込み箇所	基礎、基礎梁、土間スラブ、捨てコン	柱、梁、スラブ、壁	
標準スランプ	15	18	

② レディーミクストコンクリートの種別

種別 (6.2.1)(表6.2.1)
※ Ⅰ種 ・ Ⅱ種

③ セメント

種類 (6.3.1)(表6.3.1)
⊙ 普通ポルトランドセメントは高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種
普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日で352J/g以下、かつ28日で402J/g以下のものとする。
・ 施工箇所( )
・ 高炉セメントB種
・ 施工箇所( )
・ フライアッシュセメントB種
・ 施工箇所( )
・ ( )

④ 骨材

アルカリシリカ反応性による区分 (6.3.1)
※ A ・ B

5 軽量コンクリート

種類 (6.10.1)(表6.10.1)
・ 1種 ・ 2種

⑥ 無筋コンクリート

コンクリートの種類 (6.14.1)
・ ※ 普通コンクリート
適用箇所 (6.14.1)
・ 標仕 6.14.1(4)による箇所
・ 標仕 6.14.1(4)以外の箇所
図示による ⊙ (捨てコンクリート)
設計基準強度 (6.14.1)
※ 18N/mm2 ・ ( )
スランプ
※ 15cmまたは18cm ・ ( )

⑦ ひび割れ誘発目地
打継目地

目地寸法 (6.6.4)(6.8.1)(9.7.3)
・ 標仕 9.7.3による ⊙ 図示による
間隔、位置、形状
⊙ 図示による ・ ( )

⑧ コンクリート仕上り

部材の位置及び許容寸法の許容差の標準値 (6.2.5)(表6.2.3)
⊙ 標仕 表6.2.3による ・ ( )
合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ (6.2.5)(6.8.2)(表6.2.4)
⊙ A種 ・ B種 ・ C種
※ 適用箇所は図示による

⑨ 打増し厚さ
(打放し仕上げ部)

⊙ 打放し仕上げ(仕上塗材、塗装等の仕上げを行う部分を含む)の打増しなさ(外部に面する部分に限る) (6.8.2)
⊙ 20mm ・ ( )
・ 打放し仕上げ(仕上塗材、塗装等の仕上げを行う部分を含む)の打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
・ ( )
・ 外壁タイル張りで、MCR工法又は日建ら(高圧水洗)工法を行う場合は外部側に20mmの打増しを行う

⑩ 型枠

せき板の材料 (6.8.2)
⊙ 合板(国産材)
・ ( )
せき板の厚さ
⊙ 12mm ・ ( )
断熱材の兼用
・ 行う 適用箇所( )
⊙ 行わない
スリーブの材種
※ 標仕6.8.2(9)(ア)(イ)及び表6.8.1による ・ ( )

⑪ 単位水量の測定

⑫ 混和材料

⑬ 有り ・ 無し (6.3.2)

・ 混和剤 (6.3.1)
・ AE剤 ・ AE減水剤 ・ 高性能AE減水剤 ・ 防錆剤 ・ ( )
・ 混和材
・ フライアッシュ (・ Ⅰ種 ・ Ⅱ種 ・ Ⅳ種)
・ 高炉スラグ微粉末
・ シリカフューム
・ 膨張材
・ ( )
⊙ 施工状況により決定

⑦ 鉄骨工事

① 鉄骨製作工場

鉄骨製作工場の加工能力 (7.1.3)
※建築基準法第77条の56に基づき河川国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた(独)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鉄構工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める下記のグレードとして国土交通大臣から認定を受けた1箇又は同等以上の能力のある工場

・ S ・ H ・ M ※ R ・ J グレード

・ 監督職員の承諾する工場(標仕 7.1.1 以外の適用箇所に限る。)

② 鉄骨製作工場における施工管理技術者

※ 適用する (7.1.3)(7.1.4)
・ 適用しない

R2.4.1 版

工事名	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設新築実施設計委託	共同企業体名称	o+h・産紘設計JV	代表者	大西麻貴＋百田有希／o＋h	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-10-1 TEL&FAX:03-6264-9876 一級建築士事務所 東京都知事登録第59514号 一級建築士第367943号 百田有希	図面名	特記仕様書 2	縮尺	A3 －	日付		No. A002

⑦ 鉄骨工事

③ 鋼材

材質等 (7.2.1)（表7.2.1）

種類の記号	適用箇所		規格	
	※図示による	）	※JIS による	・大臣認定による ・
	※図示による	）	※JIS による	・大臣認定による ・

・有効細長比(圧縮材に限る) ※・図示による ・（ ）

④ 高力ボルト

ボルトの区分 (7.2.2)(7.3.2)(7.4.1～7.4.9)

⊙ トルシア形高力ボルト

⊙ JIS形高力ボルト
セットの種類 ・ 2種(F10T) ・（ ）

高力ボルトの径
⊙ 図示による ・（ ）

ボルトの機端距離、ボルト間隔、ゲージ等
⊙ 図示による ・（ ）

すべり係数試験 (7.4.2)
※ 行わない
・ 行う 試験方法等 ・ 図示による ・（ ）

⑤ 普通ボルト

ボルト及びナットの材料 (7.2.3)
⊙ 標仕 表7.2.3による ・（ ）

座金
⊙ 標仕 7.2.3(4)による ・（ ）

ボルトの径
⊙ 図示による ・（ ）

ボルトの機端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.2.3)(7.3.2)
⊙ 図示による ・（ ）

6 溶融亜鉛めっき高力ボルト

セットの種類 (7.2.2)(**7.12.4～5**)
・ 1種(F8T相当) ・（ ）

溶融亜鉛めっき高力ボルトの座
⊙ 図示による ・（ ）

溶融亜鉛めっき高力ボルトのめっき前の孔径 (7.3.8)
※ 書面(評定又は大臣認定)を受けた内容による
・（ ）

ボルトの機端距離、ボルト間隔、ゲージ等
⊙ 図示による
・（ ）

摩擦面の処理 (7.12.5)
・ ブラスト処理(表面粗度50μm程以上)又はリン酸塩処理
・（ ）

⑦ アンカーボルト

適用 (7.2.4)(表7.2.3)(7.10.3)
・ 構造用アンカーボルト
セットの種類 ・ JIS B 1220 ABR400
・ JIS B 1220 ABR490
・（ ）
形状、寸法 ・ 図示による ・（ ）
⊙ 建方用アンカーボルト
材質 ・ SS400 ・（ ）
アンカーボルト及びナットのねじの種類の規格、ねじの等級の規格及び仕上げの程度 ・ 標仕 表7.2.3による
・（ ）
形状、寸法 ⊙ 図示による ・（ ）

⑧ 溶接材料

溶接材料 (7.2.5)
※ 標仕 **7.2.5(1)(2)による。**
・ 標仕 **7.2.5(1)(2)以外の溶接材料**
材料及び使用箇所 ・ 図示による ・（ ）

9 ターンバックル

種類 (7.2.6)
建築用ターンバックル併 ・ 割除式 ・（ ）
建築用ターンバックルボルト ・ 羽子板ボルト ・（ ）
ねじの呼び ・ 図示による ・（ ）

10 床構造用デッキプレート

材質、形状及び寸法 (**6.8.2**)(**7.2.7**)

	適用箇所	材質・形状・寸法	備考
・構造床			
・合成スラブ			
・床型枠用			
・			

開口部補強要領(補強筋の定着長さ等を含む。)
・ 図示による ・（ ）

デッキプレート(鉄骨部材に溶接する場合の工法(合成スラブ除く)) (7.7.8)
・ アークボルト溶接又は隅肉溶接 ・（ ）

デッキプレートを鉄骨部材に溶接する場合の工法(合成スラブ)
・ 焼抜き栓溶接 ・スタッド ・（ ）

耐水認定
・ 有り 耐火時間 ・ 図示による ・（ ）
・ 無し

11 スタッド

材質、形状及び寸法
※ 頭付きスタッド JIS B 1198 ・（ ）

呼び名等

呼び名	H(呼長さ(mm)	適用箇所
・16		
・19		
・22		

⑫ 軽量形鋼

モルタルの種類 (7.2.9)
※ 無収縮モルタル ・（ ）
無収縮モルタルの材料、調合等
材料、調合等 ※ 標仕 **7.2.9(2)による** ・（ ）
品質及び試験方法 ※ 標仕 **表7.2.5による** ・（ ）

⑬ 工作図

監督職員による現寸検査 ※ 行わない (7.3.2)
・ 行う

溶融工学等を含め、既存価値物との取り合う箇所がある場合は現場実測の上作成を行う。

⑭ 鉄骨の製作精度

※ 標仕 7.3.3による (7.3.3)
溶接ずれ及び食い違い
・ 溶接部はH12建告第1464号第二号イ(1)(2)に規定する仕様を満足すること
・ 溶接ずれ及び食い違いはH12建告第1464号第二号イ(1)(2)に規定する
ただし書きの計算確認有り。 ⊙ 図示による ・（ ）

15 鉄骨の仮錫

仮錫を行う箇所 ・ 図示による ・（ ） (7.3.10)
確認方法、確認項目 ・ 図示による ・（ ）

16 溶接技能者の技量付加試験

試験の要領及び試験を要する溶接箇所 (7.6.3)
・ 図示による ・（ ）

⑦ 鉄骨工事

⑰ 溶接接合

開先の形状 ⊙ 図示による ・（ ） (7.6.4)
スカラップの形状 ⊙ 図示による ・（ ） (7.6.7)
ニンドタブの処置方法の部分 ・ 全て (7.6.7)
※ 見え掛り部となる部分
・ 切断する部分なし
・（ ）

溶接部の余盛り高さ ・（ ） (7.6.7)

⑱ 現場溶接の有無

・ 無し
⑲ 有り 適用箇所 ・ 図示による ⊙（ 構造図S304参照 ）

⑲ 入熱、パス間温度
溶接条件

鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件
⊙ 図示による ・（ ）
適用箇所 ・ 図示による ・（ ）
・ 柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部

⑳ 溶接部の試験

浸透探傷試験又は磁粉探傷試験 (7.6.12)
・ 行わない
※ 行う 適用箇所
※ 張れの疑いのある表面欠陥 ・（ ）

完全溶込み溶の超音波探傷試験 (**7.6.12**)(表**7.6.2**)(表**7.6.3**)
・ 行わない
※ 行う
・ 工場溶接の場合
・ 全数検査
※ 抜取検査

AOQL(%) ※4.0 ・2.5

箇	・全て	・	・
検査水準	※第4水準	・	・

・ 工事現場溶接の場合
※ 全数検査
・ 計数逐次生産型抜取検査
AOQL(%) (※4.0 ・2.5)

㉑ 錆止め塗装

塗料の種別 (**7.8.4**)(**18.3.2**)
⊙ 鉄鋼面の錆止め塗料
屋外
⊙ 標仕 18.3.2 表18.3.1(※A・B)種
・（ ）
屋内
⊙ 標仕 18.3.2 表18.3.1(※A・B)種
・（ ）
・（ ）
亜鉛めっき鉄面の錆止め塗料
⊙ 標仕 18.3.2 表18.3.2(※A・B・C)種
・（ ）
鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面(鉄骨に溶接されたものに限る)
・ 標仕 18.3.2 表18.3.1(※A・B)種
・（ ）
耐火被覆材の接着する面への塗装
・ 行わない
・ 行う
適用箇所 ・ 図示による ・（ ）
塗料の種別 ・ 標仕 18.3.1(※A・B)種
・ 標仕 18.3.2 表18.3.2(※A・B・C)種

22 耐火被覆

種別 (7.9.2～7.9.7)

種 別	材料・工法	適用箇所(部位・部分)
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール	
	・半乾式吹付けロックウール	
	・湿式ロックウール	
	・	
	・	
・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板	
	・	
・耐火材塗付け	・石膏系ロックウール	
	・	
・ラス張りモルタル塗り		
・耐火塗料		

材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする

性能

性能	適用箇所(部位・部分)
・30分耐火	
・1時間耐火	
・2時間耐火	
・3時間耐火	

㉓ アンカーボルトの保持及び埋込み工法

建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 (7.2.4)(7.10.3)(表7.10.1)
種別 ・A種 ・B種
構造用アンカーボルトの保持及び埋込み工法
種別 ・図示による ・（ ）
柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別 (7.10.3)(表7.10.2)
※ 標仕 表7.10.2 (※A種[モルタル厚さ50]・B種[モルタル厚さ30])による

24 軽量形鋼構造

接合部(ボルト接合の場合) (7.11.2)
・ 普通ボルト接合 ・（ ）

25 溶融亜鉛めっき(耐力上必要な部分)

種別等 (**7.12.4**)(表**14.2.2**)

亜鉛めっきの種別	材料	備考
・A種	・最小板厚6.0mm以上の形鋼、鋼板	
・B種	・最小板厚3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板	
・C種	・普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類	
	・最小板厚2.3mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板	

素地ごしらえは、JIS T 8641による
適用箇所 ※ 図示による ・（ ）

㉖ 梁貫通孔の補強

補強方法 ⊙ 補強トラス法、補強プレート法
⊙（ 既製品 ）
適用箇所 ※ 図示による ・（ ）

8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

1 補強コンクリートブロック造

ブロックの種類 (8.2.2～5)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ	モデュール呼び寸法 長さ	モデュール呼び寸法 高さ	化粧の有無	遮音	備考
・空洞ブロックC(16)	・120 ※150	※400 ・	※200 ・	※無 ・有		
・型枠状ブロック20				※無 ・有		
・				※無 ・有		

各部の配筋 ※図示による ・（ ）
化粧目地の有無 ・無 ・有
モルタルの調合(容積比)
・ セメント ： 砂（ ）
モルタル又はコンクリートで充填するブロックの範囲
※図示による

2 コンクリートブロック帳壁及び塀

ブロックの種類 (8.3.2～4)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ	モデュール呼び寸法 長さ	モデュール呼び寸法 高さ	化粧の有無	(表8.2.1)以外の適用箇所	備考
・空洞ブロックA(08)	・120 ※150	※400 ・	※200 ・	※無 ・有		
・空洞ブロックC(16)	・120 ※150	※400 ・	※200 ・	※無 ・有		

塀の高さ ・（ ） (表8.3.1)以外の適用箇所
壁筋等の巻き、定着及び水抜孔の折り曲げ計上 ※図示による ・（ ）
各部の配筋 ※図示による ・（ ）
化粧目地の有無 ・無 ・有
工法 コンクリートブロック帳壁の積高さは、壁厚の25倍かつ3500以内とし、
その他の部分は同厚の鉄筋コンクリート造壁とする

3 ALCパネル

(8.4.2～5)

パネルの種類	単位荷重(N/㎡)	厚さ	幅	耐火性能	表面加工	構法の種別
・外壁パネル(屋根ALC構法は図示すること)		・100 ・	・	・30分 ・1時間 ・2時間	・平 ・壁掛	・A種・B種
・間仕切壁パネル		・100 ・		・30分 ・1時間 ・2時間	・平 ・壁掛	・C種・D種・E種
・屋根パネル		・100 ・		・30分 ・1時間 ・2時間	・平	F種
・床パネル		・100 ・		・30分 ・1時間 ・2時間		

パネル相互の接合部に挿入する縦目地材
・パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合
パネル短辺小口相互の接合部、外壁パネルの出隅及び入隅のパネル接合部、並びに
パネル上端躯材との取り合い部の目地幅(mm) ※ 10～20 ・
伸縮目地への縦水目地材の充填 ・適用する ・適用しない

4 押出成形セメント板

(8.5.2～5)

パネルの種類	表面形状	厚さ	幅	工法の種別	耐火性能
・外壁パネル	・F ・P-R ・D ・D-R ・T ・T-R	・50 ・60 ・100 ・	・450 ・600 ・	・A種 ・B種	・30分 ・1時間 ・2時間
・間仕切壁パネル	・ ・	・50 ・60 ・100 ・	・450 ・600 ・	・B種 ・C種	・30分 ・1時間 ・2時間

パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合
パネルの短辺の目地幅(mm) 長辺 、短辺
出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅(mm) ※15 ・
パネルには、原則として欠き込み等を行わない。ただし、やむを得ず欠き込みを行う場合は、
下表の寸法を限度とし、欠損部分を考慮した強度を確認のうえ、施工計画書を提出する。

		開口の大きさ		切断後のパネルの残り部分の幅
パネルに開口を設ける場合	短辺	・	・図示	・図示
	長辺	・	・図示	・図示
パネルを必ず欠く場合	短辺	・	・図示	・図示
	長辺	・	・図示	・図示

9 防水工事

1 アスファルト防水

(9.2.2～5)(表9.2.3～9)
防水層の種別

種 別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート	立上部の保護
・A—1			※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上	・ 乾式保護材
・A—2			・（ ）	
・A—3				・ コンクリート押え
・B—1				
・B—2				・ モルタルとんが
・B—3				
・A—1				
・A—2				
・A—3				
・B—1				
・B—2				
・B—3				

(種類)※JISA6521に基づく押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA(スキン層付き)
※ブラッドーンタッカス 7Dg/㎡程度
・（ ）
(厚さ)※25mm ・50mm ・

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 標仕 表9.2.3から選び 表9.2.8による （ ）
露出アスファルト防水層の補強 ※ 標仕 表9.2.3から選び 表9.2.8による （ ）
防水層の下地
・ 下地モルタル塗り 適用箇所 図示による
平場の保護コンクリートの厚さ
ころび止め ※ 水下 80mm以上 （ ）
床タイル張り ※ 水下 60mm以上 （ ）
・ 乾式保護材
製造名(メーカー名)・製品名(商品名)等は原則として、仮枠に押出成形セメントクレーベ
一般したもの
(品質・性能・試験方法)
建築材料等品質性能表による

屋根断熱防水
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料 種類	仕上塗料 塗り回数	備考
・D—1			・	・	
・D—2					
・D—3					
・D—4			・アスファルトルーフィング類の製造所の仕様	※アスファルトルーフィング類の製造所の仕様	
・DI—1		標準(H建告9.2.2(9)(種類)(厚さ) ※25mm ・50mm ・			
・DI—2					

2 改質アスファルトシート防水

防水層の種別 (9.3.2～3)(表 9.3.1～3)

種 別	施工箇所	断熱材	防湿層	備 考
・AS—F1				
・AS—F2				
・AS—J1				
・AS—J3				
・AS—F4				
・AS—F11		標準(H建告9.2.2(9)(種類)・(厚さ) ※25mm ・50mm ・	・設ける (改質アスファルト製造所の仕様による) ・設けない	
・AS—J11				

仕上塗料の種類及び使用量
・図示による
改質アスファルトシートの補強及び厚さ
※ 標仕 表9.3.1～表9.3.3による ・（ ）
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 標仕 表9.3.1～表9.3.3による ・（ ）
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 標仕 表9.3.1～表9.3.3による ・（ ）
押さえ金物
※ 改質アスファルト製造所の仕様による ・（ ）
施工標識 ※ 監督職員と表示内容を協議し、指示の位置に標識を取り付ける

3 合成高分子系ルーフィングシート防水

(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)

種 別	施工箇所	絶縁用シートの材質	断熱材	仕上塗料	備 考
・S—F1				※ポリエステル不	
・S—F2				※ポリエステル不	
・S—M1					
・S—M2					
・S—M3					
・S—J1			標準(H建告9.2.2(3)(イ)(a)(b)(種類) ・(厚さ) ※25mm ・	無着色ポリエステル	
・S—F11					
・S—J11					
・S—M11			標準(H建告9.2.2(3)(イ)(a)(b)による(種類) ・(厚さ) ※25mm ・	無着色ポリエステル	
・S—M12					
・S—C1					

ルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 標仕 表9.4.1～表9.4.3による ・（ ）
固定金具の材質及び寸法形状
・ 標仕 9.4.2(3)(イ)による
・（ ）
仕上塗料の種類及び使用量
・ 図示による
防水下地のPCコンクリート部材下地の場合の処理
目地処理 ※図示による ・（ ）
入隅部の増張り(S—F1、S—F1の場合) ※図示による（ ）
施工標識 ※監督職員と表示内容を協議し、指示の位置に標識を取り付ける

4 塗膜防水

防水層の種別 (9.5.3)(表 9.5.1～2)

種別	施工箇所	仕上塗料	保護層	備 考
・X—1		※ポリエステル不		
・X—2		※ポリエステル不		
・X—T	※屋下外壁防水 ・			
・X—2	※屋内防水			

・ 超速硬化ウレタン防水
・ FRP系塗膜防水
施工標識 ※監督職員と表示内容を協議し、指示の位置に標識を取り付ける
仕上塗料の種類及び使用量 ⊙ 図示による

5 ケイ酸質系塗布防水

防水層の種別 (9.6.1～3)(表9.6.1～2)

種別	施工箇所	種別	施工箇所
※ C—UT		・C—UP	

6 脱気装置

(9.2.3)(9.3.3)(9.5.3)

種別	種類	設置数量
D—1 D—2 D—3 D—4	※アスファルトルーフィング類製造所の仕様による ・	※アスファルトルーフィング類製造所の仕様による ・
DI—1 DI—2 AS—J3 AS—F4 AS—J1 AS—F1		
X—1	※防水層の主材料の製造所の仕様による ・	・（ ）ヶ所

7 シーリング

下表以外は、標仕 表9.7.1による (9.7.2)(表9.7.1)
ただし、外壁タイル接着剤張りの場合のシーリングは1成分に、カーテンウォールの場合のシーリングは17章による

施工箇所	シーリング材の種類(記号)

シーリング材の目地寸法 ※**標仕 9.7.3(1)(ア)～(ウ)による** ・（ ）

8 保証書の提出

防水工事は責任施工とし、保証書を防水工事施工者及び受注者の連名にて提出すること。
・アスファルト防水
・改質アスファルトシート防水
・合成高分子ルーフィング防水
・塗膜防水 ……10年間保証

9 事後調査

⊙ 行う。
・ 行わない。
竣工後2年目に施工箇所の事後調査を指示にしたがって実施すること。

R2.4.1 版

工事名	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設新築実施設計委託	共同企業体名称	o+h・産紘設計JV	代表者	大西麻貴＋百田有希／o＋h	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-10-1 TEL&FAX:03-6264-9876 一級建築士事務所 東京都知事登録第59514号 一級建築士第367943号 百田有希	図面名	特記仕様書 3	縮尺	A3 -	日付		No. A003

10 石工事

1 施工　　(10.1.3～5)

石材の割付け　※標仕10.1.3(1)(ア)～(イ)による　・図示による
相番仕上げの場合のつみ上る高さの上げ　・図示による　・（　　）
壁からの出を不測をとする場合のジョイスの打　・行う(亀甲張場所　・すべて　・
・行はない

2 石材等　　(10.2.1～3)(表10.2.1～2)

天然石

製品箇所	等級	石材の種類	形状	寸法	厚さ	表面仕上げ	備考
	・1等品 ・2等品		帯止方形に 近い寸形 ・	・図示		・粗磨き ・本磨き	
	・1等品 ・2等品		帯止方形に 近い寸形 ・	・図示			

テラゾブロック

施工箇所	種々の種類	種々の大きさ(mm)	形状	仕上げ面	寸法	点面仕上げ	備考
	・全大形の ・走ころ記	・約1.5～12 ・	・特もの ・従もの	・平面 ・簡面	・図示		
	・全大形の ・走ころ記	・約1.5～12 ・	・特もの ・従もの	・平面 ・簡面	・図示		

テラタイル

施工箇所	種々の種類	種々の大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考
	・全大形の ・走ころ記	・約1.5～12 ・	・300型 ・600型		
	・全大形の ・走ころ記	・約1.5～12 ・	・300型 ・600型		

取り付け下地モルタル、現場への自地モルタル、石裏面処理材、置打ち処理材
※石材施工業者の指定する製品　・　（　　）

3 外壁屋内工法　　(10.2.2～3)(10.3.2～3)

石裏面処理　・適用する　・適用しない
張打ち処理　・適用する　・適用しない
下地こしらえ　※図による　・あと張工アンカー工法　・あと張工アンカー、横筋横流し工法
受金物　材質　※SS400
形状及び寸法　・L-75×75×6(mm)の加工　L=100mm
・L-75×75×6(mm)の加工　L=150mm
・（　　）

ドレインパイプの材質　・樹脂系ポリ製パイプ　クロスメッシュ巻き　25～35φ
・（　　）
アンカーの材質及び寸法　※SS400　M12　・　（　　）
あと施工アンカーの材質及び寸法(　　)
目地　一般目地　H地棚(mm)　※6以上　・（　　）
シーリング材　・適用する　・適用しない
伸縮調整目地　位置　※標仕 11.1.1による　・図示による
シーリング材の目地寸法　※標仕 9.7.3(1)(ウ)による
・図示による

4 内壁空積工法　　(10.2.2)(10.4.2～3)

受金物　材質　※SS400　・（　　）
形状及び寸法　・L-75×75×6(mm)の加工　L=100mm
・L-75×75×6(mm)の加工　L=150mm
・（　　）

下地こしらえ　※あと張工アンカー、横筋横流し工法　・あと張工アンカー工法
アンカーの材質及び寸法　※SS400　M12　・　（　　）
あと張工アンカーの材質及び寸法（　　）
目地　一般目地　H地棚(mm)　※6以上　・（　　）
シーリング材　・適用する　・適用しない
伸縮調整目地　位置　※ 6mごと　・図示による
シーリング材の目地寸法　※標仕 9.7.3(1)(ウ)による
・図示による

5 乾式工法　　(10.2.2)(10.5.2～3)(表10.2.4)

乾式工法の方式による金物の種類、計1、寸法等
（　　）
取り付け方式　・スライド方式　・ロッキング方式
石裏面処理　・適用する　・適用しない
張打ち処理　・適用する　・適用しない
だぼ用の穴の位置　※標仕 10.5.2(2)(ア)による　・図示による
外壁の上出
躯体基準法に基づき定める風圧力に対応した工法
※適用する(建築基準法に基づき定める風圧力の(・1　・1.15　・1.3)倍の風圧力に対応した工法)
・適用しない
アンカーの材質及び形状　※ステンレス(SUS304)　M10　・（　　）
あと施工アンカーの材質及び寸法　・（　　）
目地　H地棚(mm)　※6以上　・（　　）
シーリング材　・適用する　・適用しない

6 床及び階段の石張り　　(10.6.2～3)

床仕様の表面処理　・適用する　・適用しない
階段段の表面処理　・適用する　・適用しない
目地　・樹脂目地(mm)　・図示による　・（　　）
シーリング材　・適用する　・適用しない
伸縮調整目地　位置　※躯体厚30cm程度ごと、縁長い場合6m程度ごと及び
他面材との取り合い部　・図示による

7 アーチ、上げ裏等の石張り　　(10.2.2)(10.7.1～2)

取り付け工法　・外壁乾式工法　・内壁空積工法　・乾式工法
取り付け金物　※標仕 10.2.2(3)による　・　（　　）
引金物、だぼ、かすがい及び受金物　※標仕 10.2.2(1)による　・　（　　）
石金物及び化粧用のボルト
・鉄(・丸鋼　※金物　※ステンレス(SUS304)径6mm長さ80mm(加工数)
・（　　）
吊りボルト　※ステンレス(SUS304)M10化粧ナット付き
・（　　）
・設けない
石裏面処理　・適用する　・適用しない
張打ち処理　・適用する　・適用しない
アンカーの材質及び形　・SS400 M12　・ステンレス(SUS304) M10　・　（　　）
あと施工アンカーの材質及び寸法（　　）
目地　一般目地　目地幅(mm)　※6以上　・
伸縮調整目地　位置　※縁の部位との取り合い部　・図示

8 笠木、甲板等の石張り　　(10.2.2)(10.7.1～3)

取り付け工法　・外壁乾式工法　・乾式工法
取り付け金物　※標仕 10.2.2(3)による　・　（　　）
引金物、だぼ、かすがい及び受金物　※標仕 10.2.2(1)による　・　（　　）
石裏面処理　・適用する　・適用しない
張式工法の場合の取付け代　※標仕 10.5.3(2)による　・　（　　）
お東の緩衝用モルタル　・適用する　・適用しない
アンカーの材質及び形　・ステンレス(SUS304) M10　・　（　　）
あと施工アンカーの材質及び寸法(　　)

9 製造所及び施工業者　　監督員の承認による。

11 タイル工事

① 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地　　(11.1.3)(表11.1.1)

位置　※標仕 表11.1.1による　・図示による

2 セメントモルタルによるタイル張り

タイルの形状、寸法等　　(11.2.2)(11.2.3)

張付け面	形状による区分	形状、寸法	吸水率による区分	うわぐすり	反り	色	再生材の適用	耐凍害性		溶化性による区分	備考
			Ⅰ類 Ⅱ類 Ⅲ類	掛かり	掛かり	有 無	濃地	淡地	有 無		
床	外装	100角 ・	・	・	・	・	・	・	・	・	
壁	外装	100角 ・	・	・	・	・	・	・	・	・	

（タイル有望仕様定）
※焼成成形　※焼成温度1200℃以上　※素十年地　※面供はクラ面(先むち)　※裏面は見払い(接着剤貼対応)
※表面に阿蘇黄土(リモナイト)を含む柔を吹付けのち、阿蘇のカヤ灰を用いた焼要をムラ掛け施成
※その他、無料に関連の大出(灰)を用いて、同審出周辺のラウドスケープを想起させるような仕上げのタイルとする
標準的な仕上げの施例は　体成形とする
試験棟0　・行う　※行わない
見本焼き　・行う(3回)　・行わない
検査員のホルムアルデヒド放散量　※適用対象外　・（　　）
外装タイル接着剤関係における目地のシーリング材
打継ぎ目地　※ポリウレタン系シーリング材　・（　　）
ひび割れ誘発目地　※ポリウレタン系シーリング材　・（　　）
伸縮調整目地　※変成シリコーン系シーリング材　・（　　）
その他の目地　※変成シリコーン系シーリング材　・（　　）
モルタル塗りとうこう　グリート素地面の処理　・MCR工法・目荒し工法(西山保神)　・（　　）
※磁器製(　　)　・（　　）

4 階段滑り止め

12 木工事

① 表面仕上げ　　(12.1.4)

表面仕上げの種類		適用箇所
機械加工	・A種 ・B種 ・C種	下地を隠し材
手加工	・1一A種 ・1一B種 ・C種	内装造作材 下地材

② 製材　　(12.2.1)(12.5.1)(12.6.1)(12.7.1)

・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹材

施工箇所	樹種	寸法	等級	形状	含水率	保存処理	材面の仕上	備考
国示による	図示	図示	・2等 ・3等	図示	・各A種・B種・ ・各A種の他・	図示	図示	
			・3等		・各A種の他・			

・「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹材

施工箇所	樹種	寸法	等級	形状	含水率	保存処理	材面の仕上	備考
国示による	図示	図示	・1等 ・2等以上	図示	・各15%以下	図示	図示	

・「製材の日本農林規格」による造作用広葉樹材

施工箇所	樹種	寸法	等級	形状	含水率	保存処理	材面の仕上	備考
国示による	図示	図示	・1等 ・2等	図示	・各15%以下	図示	図示	

・「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	樹種	寸法	造作材の材面の仕上	防虫処理	腐朽処理	含水率	備考
			（　　） 造作材の場合 (図名称・記号)	・図示 ・適用しない	・適用する ・適用しない	・各A種・B種 ・	・

③ 造作用集成材　　(12.2.1)

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法	見付け材面数	見付け材面の吊質	備考
国示による	図示	図示	図示	・1等 ・2等	

・「集成材の日本農林規格」による化粧2の造作用集成材

施工箇所	化粧面の樹種	芯材の樹種	寸法	化粧面の厚さ(mm)	見付け材面の吊質	備考
国示による	図示	図示	図示	図示	※1等・2等	

・「集成材の日本農林規格」による化粧1の構造用集成材

施工箇所	化粧面の樹種	芯材の樹種	寸法	化粧面の厚さ(mm)	見付け材面の吊質	備考
国示による	図示	図示	図示	図示	図示	

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法	見付け材面の品質	含水率	備考
				・各15%以下 ・	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧1の造作用集成材

施工箇所	化粧面の樹種	芯材の樹種	寸法	化粧面の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	備考
						・各15%以下 ・	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧1の構造用集成材

施工箇所	化粧面の樹種	芯材の樹種	寸法	見付け材面の品質	化粧面板の厚さ(mm)	含水率	備考
						・各15%以下 ・	・

④ 造作用単板積層材　　(12.2.1)

「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

施工箇所	厚さ	表面の化粧加工	防虫処理	備考
図示	図示	・表(・加工・張木加工、・塗装加工) ・裏(・等級:　　)	・適用する ・適用しない	・

12 木工事

⑤ 床張り用合板等

「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

施工箇所	厚さ	表面の化粧加工	防虫処理	含水率	備考
		・各切加工・大臣木加工・塗装加工 ・無し	・適用する ・適用しない	※15%以下	

CLT(直交集成材)

施工箇所	出名	許可性能(告示等級)	種別	接着性能区分(構造規定)	樹種	寸法	備考

・普通合板□G　　(12.2.1)

施工箇所	厚さ	等級の種類名	除草の処理	製品の吊質	防虫処理	備考
図示	・9ミリ ・しな	張1等・2類 ・3類	・各2倍以上・1等 対象樹 ・各C→D以上	・適用する ・適用しない	・適用する	

・準耐用合板□G

製品箇所	厚さ	等級	甲板の種類名	除草の処理	板面の吊質	有害物質無発と	防虫処理	強度等級	備考
図示	図12 ・9ミ	・2類以上 ・1類	図示	図1類 ・特類	・各C→D以上 ・		・適用する ・適用しない	・（　） ・（　）	・

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板

施工箇所	厚さ	化粧板に使用する忠取の数種名	接着の程度	防虫処理	備考
			・1類 ・2類	・適用する ・適用しない	・

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板

施工箇所	厚さ	接着の程度	表面性能	化粧加工の方法	防虫処理	備考
		・1類 ・2類			・適用する ・適用しない	・

・パーティクルボード□G

施工箇所	厚さ	心置mの状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤によるE区分	健康性によるE区分
	・各15 ・		・各15タイプ ・	・各Pマスト1 ・	

・構造用パネル

施工箇所	厚さ	等級			
		・1級	・2級	・3級	・4級

・MDF

施工箇所	厚さ	表面加の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤によるE区分	健康性によるE区分

⑥ 接着剤　　(12.2.2～3)

接着剤に含まれるF等級は、建築物性のものとする。
ホルムアルデヒドの放散量　※ 規制対象外　・（　　）

⑦ 防腐・防蟻　　(12.3.1～2)

・防腐、防蟻処理が不要の樹種による製材
適用部位：（　ヒバ(十分を除く)　）

・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部位	保存処理性能区分
	・K2・K3・K4
	・K2・K3・K4

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部位	処理の方法
	※標仕12.3.1(4)(b)1～4による ・
	※標仕12.3.1(4)(b)1～4による ・
	※標仕12.3.1(4)(b)1～4による ・

・ボード状押接着材への薬剤混入による防腐、防蟻処理
適用箇所(　　)

⑧ 「製材 及び「合板」製品　　合板木材販売業者を監督員に提出すること。

13 屋根及びひさし工事

1 長尺金属板葺　　(13.2.2～3)

施工箇所	板及びスロールの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び区分等	厚さ	屋根葺形式	備考
	・JIS G 3322の 塗装用ロール (・GGAZR40-M-A150) ・			・立ハゼ(ス)手葺 ・立平型・嵌合型 ・横葺・	

・葺材料　※アスファルトルーフィング 940
・改質アスファルトルーフィング下葺材
(・一般タイプ・複層材タイプ・防水層付タイプ)
・葺止め　・設置する(図示)

2 折板葺　　(13.2.2)(13.3.2～3)(表 13.2.1)

施工箇所	形式	山高、山ピッチによる区分		耐力による区分	材料による区分	厚さ	有効幅W板	耐火性能
		山高	山ピッチ					
	・平葺形 ・立ハゼ葺形 ・ひし形	（　）m		※断板表 ・・・による ・・・各数値			・有り ・無し	・30分 ・無し

材料　※JIS G 3322の屋根用カラー鋼板(・GGLCCR-25-A150)
・（　　）
断熱材　・有り(種別:　　厚さ(mm):　　防火性能:　時間)
・無し
タイトフレームにJIS G 3322以外の鋼材を使用外気の影響をさけない場合で
使用する場合の表面処理
(標準性能表表14.2.2による　・不種　・P種　)
上記　折板のスパンによるため
・
申げ成型メーカによる加工
・

・立上材：タイル貼
・下貫材料：プチルゴム系防水シート t=1.2mm
プチル粘性ゴム t=1.0mm
製造所承認自動消火 t=20mm

13 屋根及びひさし工事

4 とい　　(13.5.2～3)(表13.5.5)

といの材種

種別	材種	径	施工箇所	備考
たてとい	・硬質の塩化ビニル管 ・充填用調管 ・ステンレス鋼管 ・硬質の塩化ビニル管(カラー) ・アルミ合金製アルミ合金ビニル被覆三層管(AG			SUS304、t0.2
集水とい	・			

ロックウール保温筒及びフェノールフォーム保温筒のホルムアルデヒド放散量
・※規制対象外　・（　　）
飼管類といの防露巻き　・適用する(下法:※標仕表13.5.4による　・
・適用しない

とい受金物　(13.5.2)(表 13.5.3)

材種　※ステンレス製　・鋼製(亜鉛めっき)
形状　※市販品(とい径100以下)　25×4.5(とい径100を超えるこの)
・
取付間隔　・

定金物
材種　※ステンレス製　・鋼製(亜鉛めっき)
形状　※市販品　・
取付間隔　・

ルーフドレン

種別	施工箇所
・たて込み型(ドイ・硬質　・樹脂)	
・バルコニー用	
・バルコニー下排用	

⑤ 保証書の提出　　屋根工事は責任施工とし、保証書を屋根工事施工者及び防水者の連名にて提出すること。
(10)年間保証

⑥ 事後調査　　・行う　・行わない
屋下屋2年目に竣工期間の事後調査を受ける事とし完成すること。

14 金属工事

① あと施工アンカーの強度試験　　構仕14.1.3(1)(エ)による確認試験を行う。(14.1.3)

② 鉄鋼の亜鉛めっき　　(14.2.3)(表14.2.2)

表面処理方法	種別	施工箇所(干やり、ドライ以外)
溶融亜鉛めっき	・A種 ・B種 ・C種	ニホスパンドメタル
電気亜鉛めっき	・A種 ・B種 ・C種	

③ 軽量鉄骨天井下地　　野縁等の種類　(14.4.2～4)
屋外　(　※ 25形　・ 19形)　屋内　(　※ 19形　・ 25形)
・足長の軽天材、ヒロイス吊り
工法
・足要荷重法に基づき定める風圧力及び積雪荷重に対応した下法
※ 適用する
(建築基準法に基づき定める風圧力の(・1　・1.15　・1.3)
倍の風圧力に対応した下法)
・ 適用しない
野縁受、切ボルト及びインサートの間隔
※ 900ピ度　・（　　）
開口部の設けの方法
・ 図示による　・(150)
野縁の間隔
※ 300程度　・（　　）
・ 補強　※ 図示による　・（　　）
・ 吊ボルトの間隔が900mmを超える場合
補強方法　※ 図示による　・（　　）
・ 大井のふところが1.0mを超える場合
補強方法　※ 図示による　・（　　）
・ 天井下地材における耐震性を考慮した措置
補強箇所　・ 図示による　・（　　）
補強方法　※ 図示による　・（　　）
・「特定天井及び特定天井の構造耐力上安全な構造を定める件」
(平成28年6月6日　国土交通省告示第771号)に定める特定天井
※ 上記及び適用せ　図示による
・ 天井構成部材等の単位面積当たりの質量が30kg/㎡を超える天井
※ 下法及び設計等　図示による
・ 水平でない天井及びシステム天井
※ 下地及び設計等

④ 軽量鉄骨壁下地　　スタッド、ランナーの種類　(14.5.3)(表14.5.1)
壁仕上14.5.1による スタッドの高さによる区分に応じた種類　・ 図示による
スタッドの間隔0.5、0m を超える場合　※ 図示による　・（　　）

⑤ 金属成形板張り　　(14.6.2～3)(表14.2.1)

材種	・アルミニウム　・（　　）
製造	※ 押出し　・プレス　・ロール
寸法	板幅　※ 100　・（　　）板厚　※ 1.0　・（　　）
形状	・スパンドレル形　・パネル形
表面処理等	・　・（　　）
・	・

野縁調整縁手　・設ける　・設けない

⑥ アルミニウム製笠木　　形材の種類　(14.7.2～3)(表14.2.1)
・250形　・300形　・350形　・100形
・板折り曲げ形　(本体幅　mm)
板厚(mm)　※ 2　・（　　）
表面処理
(14.7.2～3)(表14.2.1)
・ 素地のまま
・ 塗装の種類　※ 標仕表14.2.1による　・（　　）
・ 色合　(　　)

15 左官工事

① モルタル塗り　　(15.3.2～5)
モルタル　・製調合材料　・調合材料
(材料:　　)
床の目通　・設ける
(・1種厚み　※2m勾配(最大1地間隔m程度)　・図示による)
(・種類　※押し目地　・カッター目地　)
・設けない

工事名	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設新築実施設計委託	共同企業体名称	o+h・産紘設計JV	代表者	大西麻貴＋百田有希／o＋h	図面名	特記仕様書 4	縮尺	A3 -	日付		No. A004

〒103-0007　東京都中央区日本橋浜町3-10-1　TEL&FAX:03-6264-9876
一級建築士事務所　東京都知事登録第59514号　一級建築士第367943号　百田有希

15 左官工事

2 仕上塗材仕上げ
- 薄付け仕上塗材 (15. 6. 2)

塗ぐあ	防火材料	仕上げの形状等
・ 外装薄塗材Si	・	・ 必要状
・ 可とう形外装薄塗材Si	・	・ ゆず肌状（・吹付け ・ローラー塗）
・ 外装薄塗材E	・	・ さざ波状
・ 可とう形外装薄塗材E	・	・ 半たん状
・ 防水形外装薄塗材E	・	・ 凹凸状（・吹付け ・こて塗）
・ 外装薄塗材S	・	・ 着色骨材静摩状
・ 内装薄塗材C	・	（・吹付け ・こて塗）
・ 内装薄塗材Si	・	・ 必要状（ゆらぐ
・ 内装薄塗材E	・	・ 吸放湿性 ・ 適用する ・ 適用しない
・ 内装薄塗材W	・	・ 耐溶性 ・ 適用する ・ 適用しない

内装仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放射量 ※ F☆☆☆☆ ・

- 複層仕上塗材

塗ぐあ	防火材料	仕上げの形状等
・ 複層塗材CE	・	・ ゆず肌状 ・ 凸部処理 ・ 凹凸状
・ 複層塗材Si	・	
・ 複層塗材E	・	上塗り材
・ 複層塗材RE	・	・ 耐候性区分 ※ 耐候形3種
・ 可とう形複層塗材CE	・	溶媒 ※ 水系 ・ 溶剤系
・ 防水形複層塗材CE	・	樹脂 ※ アクリル系
・ 防水形複層塗材E	・	外観 ※ つやあり ・ つやなし
・ 防水形複層塗材RE	・	・ メタリック

- 吸水調整材仕上塗材

塗ぐあ	防火材料	仕上げの形状等
・ 次仕用軽量塗材	・	
・ こて塗用軽量塗材	・	

3 ALCパネルの場合の下地処理
内装仕上面部の形状 ※ V形目地引き ・（ ） (15. 6. 4)

4 マスチック塗料塗り
種別 ・ A種 ・ B種 （仕上材Q9:EP－G ※B種 ・A種） (15. 7. 2)

5 ロックウール吹付け (15. 12. 2～4)

種 類	色 岩	次 付 け 厚 さ
・ 一般用 ・（ ）	・ 着色 ・ 原色	・ 10 ・ 15 ・ 20 ・ 25

ロックウール及び接着剤のホルムアルデヒド放射量 ※ F☆☆☆☆ ・

6 保証書の提出
・ 外装塗材は、施工業者及び購負者との連名で保証期間5年間の保証書を提出すること。

16 建具工事

① アルミニウム製建具 (16. 2. 2)(16. 2. 3～5)(表16. 2. 1)

性能等級
外部に面する建具 ⊙ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種
・ 防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級（ ） ※図示による
・ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 断熱性の等級（ ） ※図示による
・ 耐震ドアとする場合 面内変形追随性の等級（ ）
※図示による

枠の見込み寸法 ⊙ 建具表による
表面処理
外部に面する建具 ⊙ BB－1種 ・ BB－2種 ・（ ）
皮膜等の種類（※標仕表14. 2. 1による ・ ）
着色（ ）
扉内の建具 ⊙ BC－1種 ・ BC－2種 ・（ ）
皮膜等の種類（※標仕表14. 2. 1による ・ ）
着色（ ）
結露水の処理方法 ※ 図示による ・（ ）
水切り板、ぜん板 ※ 図示による ・（ ）

② 鋼戸等 (16. 2. 3)

種類	材 給	網径	網 汗
⊙ 防虫網	・ 合成樹脂製	※ 0. 25mm以下	※ 16～18メッシュ
	※ ガラス繊維入り合成樹脂製	・（ ）	・（ ）
	・ ステンレス(SUS316)製		
・ 防当網	ステンレス(SUS304)線材	1. 5mm	網目寸法15mm

③ 樹脂製建具 (16. 2. 2(1))(16. 3. 2～4)(表16. 3. 3)

外部に面する建具 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種
・ 防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級（T-1 ・T-2 ） ※図示による
・ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 断熱性の等級（H-4 ・H-5 ・H-6 ）
※図示による

枠の見込み寸法 ・ 建具表による
表面色 ・ 標準色 ・ 特注色
水切り板、ぜん板 ※ 図示による ・（ ）
ガラス ※ 複層ガラス ・

④ 鋼製建具 (16. 2. 2)(16. 4. 2～4)(表16. 4. 2)

性能等級
簡易気密型 ・ 適用する ⊙ 図示による (表16. 4. 1)
・ 適用しない (表16. 2. 1)
外部に面する建具の耐風圧性
⊙ S－4 ・ S－5 ・ S－6
・ 防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級（ ） ※図示による
・ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 断熱性の等級（ ） ※図示による
・ 耐震ドアとする場合 面内変形追随性の等級（ ）
※図示による

鋼板

材料	めっき付着量	厚さ
⊙ JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板)	※Z12又はF12	⊙ 表16. 4. 2による

⑤ 鋼製軽量建具 (16. 2. 2)(16. 5. 2～4)

性能等級
簡易気密型 ・ 適用する ⊙ 図示による
・ 適用しない
外部に面する建具の耐風圧性
⊙ S－4 ・ S－5 ・ S－6
・ 防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級（ ） ※図示による
・ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 断熱性の等級（ ） ※図示による
・ 耐震ドアとする場合 面内変形追随性の等級（ ）
※図示による

鋼板 ※ 亜鉛めっき鋼板 ・ ビニル被覆鋼板 ・ カラー鋼板
鋼板の厚さ ⊙ 標仕表16. 5. 1による
召合せ、戸当り包み板等の材質 ※ ステンレス鋼板 ・ 鋼板

⑥ ステンレス製建具 (16. 2. 2)(16. 4. 2)(16. 6. 2～5)

性能等級
簡易気密型 ・ 適用する
・ 適用しない
・ 外部に面する建具の耐風圧性
・ S－4 ・ S－5 ・ S－6
・ 防音ドア、防音サッシとする場合 遮音性の等級（ ） ※図示による
・ 断熱ドア、断熱サッシとする場合 断熱性の等級（ ） ※図示による
・ 耐震ドアとする場合 面内変形追随性の等級（ ）
※図示による

16 建具工事

⑦ 木製建具 (16. 7. 2～4)(表16. 7. 1)

建具枠の加工、組立時の含水率 ※ B種 ・（ ）
・ フラッシュ戸
表面材の会板の種類

合板の種類	規格等	摘 考
※ 普通合板	表面の銘類	
	生地、透明塗料塗り （※ワリン程度 ・ ）	
	不透明塗料塗り （※ヒ 程度 ・ ）	
	板面の品質 （ ）	
	接着の程度 （ ・1類 ・2類 ）	
・ 天然木	樹種名 （ ）	
化粧合板	接着の程度 （ ・1類 ・2類 ）	
・ 特殊加工	化粧加工の方法	
化粧合板	（オーバーレイ ・プリント ・塗装）	
	表面性能 （ ）タイプ	
	接着の程度 （ ・1類 ・2類 ）	

表面板の厚さ ※標仕表16. 7. 6による ・（ ）

⑧ 建具用金物 (16. 4. 6)(16. 8. 4)

標準型建具
⊙ マスターキー ※ 製作する （ ※ 新規 ・ 既存にあわせる ） ・ 製作しない
※ シリンダー錠錠
※ レバーハンドル 材質 ※ アルミニウム合金 ・ ステンレス ・ 黄銅
厚金 ※ 九厚 ・ 長厚
※ ドアクローザー
・ Grade1 ※ Grade2
材質 ※ アルミニウム合金

(表16. 8. 1)(16. 8. 2)

標準型建具以外の建具
⊙ マスターキー ※ 製作する （ ※ 新規 ・ 既存にあわせる ） ・ 製作しない
※ シリンダー錠錠
※ レバーハンドル 材質 ※ アルミニウム合金 ・ ステンレス ・ 黄銅
厚金 ※ 九厚 ・ 長厚
・ 鏡り形 材質 ※ ステンレス
⊙ 木錠印錠 耐じん性能（ ）
⊙ 空錠
※ レバーハンドル 材質 ※ アルミニウム合金 ・ ステンレス ・ 黄銅
厚金 ※ 九厚 ・ 長厚
・ 鏡り形 材質 ※ ステンレス
⊙ グレモン錠
レバーハンドルの材質 ※ 亜鉛合金 ・ ステンレス
⊙ 点検口錠（平面ハンドル錠）
材質 ※ ステンレス ・ 亜鉛合金程度
・ 非常錠
・（ ）
⊙ ピボットヒンジ
カバー部の材質 ※ ステンレス ・ 亜鉛合金
・ フロアヒンジ*
・ Grade1 ※ Grade2
カバー部の材質 ※ ステンレス
・ ヒンジクローザー（ 1 番形）*
材質 ・ 鋼（塗付け塗装）
⊙ ヒンジクローザー（ピボット形）*
材質 ⊙ 鋼（塗付け塗装）
⊙ ドアクローザー*
・ Grade1 ※ Grade2
材質 ※ アルミニウム合金 *同建具金物の製造所は評価各陣による
⊙ 開閉順位調整器
材質 ※ ステンレス ・ 鋼製
⊙ 押棒、押板
材質 ⊙ ステンレス ・ 黄銅 ・ 合成樹脂
⊙ アームストッパー
材質 ※ 鋼（クロムめっき） ・ ステンレス
⊙ クレセント
※ 建具製造元の仕様による
⊙ 非埋オペレーター （ ※ 薄込 ・ 露出 ）
⊙ レール
材質 ※ ステンレス ・ アルミニウム合金 ・ 黄銅

⑨ 網戸 (16. 8. 4)

形式 ・ 30本 （ 個） ・ 120本 （ 個） ・ 60本 （ 1 個） ・（ ）本 （ 個）
鋼製巾板吊とし、錠前員の水張による。

⑩ 自動ドア開閉装置 (16. 9. 2～3)

引き戸用駆動装置
性能重 ※ 標準仕様書16. 9. 1
・種類、開閉方法 （ ） ・耐電圧 （ ）
・温度上昇 （ ） ・耐久性（サイクル） （ ）
・防錆 （ ） ・電源 （ ）

多機能トイレ(共人)ロ引き戸用駆動装置
性能重 ※ 標準仕様書16. 9. 2
・耐電圧 （ ） ・温度上昇 （ ）
・耐久性（サイクル） （ ） ・防錆 （ ）
・電源 （ ）

引き戸用検出装置
性能重 ※ 標準仕様書16. 9. 3
・耐電圧 （ ） ・防錆 （ ）
・防錆 （ ） ・電源 （ ）

戸の落開方式
・建具表による ・
引き戸用検出装置の種類 標準仕様書16. 9. 4
・建具表による ・
戸締り止め錠
・適用する ・適用しない

⑪ 自開式手動引戸装置
性能 ※ 標仕表16. 10. 1による (16. 10. 2～3)(表16. 10. 1)

⑫ 重量シャッター (16. 11. 2～4)(表16. 11. 1)

種類	シャッターケース	耐風圧強度(N/㎡)	開閉形式	備考
・ 普通用	・ 設ける	・ 50	※ 上部電動入	
シャッター	・ 設けない	・ 80	(手動併用)	
・ 外壁川防火	※ 設ける	・ 120	・ 上部手動式	※ 塩害防止機構
シャッター		・（ ）		※ 障害物感知装置(自動開閉型)
⊙ 屋内用防火				・ シャッターの二段降下方式
シャッター				
・ 屋内用防煙				
シャッター				

16 建具工事

13 軽量シャッター (16. 12. 2～4)

二重チェーン、急降下制動装置、急降下停止装置を設けた電動シャッターの設置位置
・図示 ・
防火シャッター若しくは防煙シャッターの危険防止機構
⊙ 設ける 設置位置 ⊙ 図示 ・
「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」(昭和48年12月28日
建設省告示第2563号)に定める基準に適合するもの
※ 特定無窓居室(自動開鎖型) ・ 可動壁板式
・ 設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類 ・ JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板)
・ JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板)
めっきの付着量 ※ Z12又はF12 ・（ ）
電動式の場合の電源 ※ 一相200V 0. 75kw以下(遠電波保護装置付)
・（ ）
工事範囲 次項(配線)は別途工事とし、開閉機構以降の 次配線は本工事に含む。

開閉形式	シャッターケース	耐風圧強度(N/㎡)
※ 手動式	※ 設ける	・ 50
・ 上部電動式	・ 設けない	・ 65
(手動併用)		・ 80
		・

スラットの材質	めっき量
・ JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板)	※ Z06又はF06
・ JIS G 3322(塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板)	※ AZ90

スラットの形状	ガイドレール・座金の材質
※ インターロッキング形	※ ステンレス(SUS304)
・ オーバーラッピング形	・ 溶融亜鉛めっき鋼板

電源 ※ 単相 100V (遠電波保護装置付) ・ ( )
・ 事範囲 一次側配線は別途工事とし、開閉機構以降の二次側配線は本工事に含む。
※ 障害物感知装置(自動開鎖型)

14 オーバーヘッドドア (16. 13. 2～3)

セクション材料による区分	耐風圧(N/㎡)による区分	開閉方式による区分	収納形式によるK分	ガイドレールの材質
※ スチールタイプ	・ 125	※ バランス式	・ スタンダード形	※ ステンレス鋼板
・ アルミニウムタイプ	・ 100	・ チェーン式	・ ローヘッド形	(SUS304)
・ ファイバーグラスタイプ	・ 75	・ 電動式	・ ハイリフト形	・ 溶融亜鉛めっき鋼板
	・ 50		・ バーティカル形	

⑮ ガラス (16. 14. 2)

・ フロートガラスの品種及び厚さの呼びによる種類
・ 建具表による

・ 型板ガラスの厚さによる種類
・ 建具表による

・ 網入りガラス及び線入板ガラスの網又は線の形状、桜の表面の状態及び厚さの呼びによる種類
・ 建具表による

・ 合わせガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ
・ 建具表による
形状による種類
・ 平面合わせガラス ・ 曲面合わせガラス
落球衝撃はく離粘性並びにショットバック衝撃特性による種類
・ I 類 ・ II－1類 ・ II－2類 ・ III類

⊙ 強化ガラス
形状による種類、材料板ガラスの種類による名称 ・建具表による ・A003維評細則3 D127
破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類 ・ I 類 ・ 耐類
・ 熱線吸収板ガラス
板ガラスによる種類、ぼかによる種類 ・建具表による
性能による種類 ・1類 ・2類
・ 複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ ⊙建具表による
断熱性による区分 ⊙1 ・T2 ・T3 ・T4 ・T5 ・T6
日射遮蔽性、日射遮蔽性による区分 ⊙ ・S
乾燥気体の種類 ⊙空気 ・アルゴン
・ 熱線反射ガラス (16. 14. 2)(16. 14. 4)
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類 ・建具表による
日射熱遮蔽性による区分 ・1種 ・2種 ・3種
耐久性による区分(日射熱遮蔽性による区分が2種の場合) ・A類 ・B類
映像調整 ・行わない ・行う
・ 位強度ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類 ・建具表による

ガラスの留め材及び溝の大きさ (16. 14. 3)

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製	※ シーリング材	※ 建具の製造所の
	・ ガスケット	仕様による
	・ グレイジングチャンネル形	・ 図示による
鋼製及び鋼製軽量	※ シーリング材 ・（ ）	
ステンレス製	※ シーリング材 ・（ ）	
樹脂製	※ シーリング材	
	・ ガスケット	
	・ グレイジングチャンネル形	

ガラスブロック積み
JIS A 5212によるもの又は評価を準によるもの (16. 14. 5)

表面形状	寸法	区さ	色調	防火認定	備 考
				・ なし	
				・ 防火設備	

⑯ ガラス用フィルム ⊙（ 各ガラス ）

17 カーテンウォール工事

① 取付方法、性能等 ⊙ 図示による

② メタルカーテンウォール
カーテンウォールの材料 (17. 2. 2)

材料	規格	表面処理	枕機調整
※ アルミニウム製	※ 標仕16. 2. 3による	塗膜の種類	・ 行う
⊙ 鋼製	・（ ）	(※標仕表14. 2. 1による)	・ 行わない
・ ステンレス		着色（ ）	

製品及び取付位置の寸法許容差 ※ 標仕表17. 2. 1～3による
ガラス溝の寸法、形状 ※ 製造所の仕様による
シーリング材の種類 ⊙ 図示による
ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差 mm
・ t＝1～2, W1及びW2＝±1
製品及び取付位置の寸法許容差 ※ 標仕表17. 3. 1～2による ・（ ）

③ PCカーテンウォール (17. 3. 2～5)
カーテンウォールの材料
コンクリート 種類（ ）
※ 標仕17. 3. 2(1)(ア)～(ウ)による
鉄筋 ※ 295A （ ・ D13 ・ D10 ）
補強筋径 径(mm) ・ 3. 2 ・ 4. 0 ・ 5. 0 ・ 6. 0
・ 鋼材寸法 ・
配筋 ※ 図示による
先付けの材料 ・ サッシ枠 ・ ゴンドラ用ガイドレール
表面仕上げ面 ・ 磁器質タイル
・ 石材 （ ・ 花こう岩 ・ 大理石 ）
ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差 mm
・ t＝1～2, W1及びW2＝±1
製品及び取付位置の寸法許容差 ※ 標仕表17. 3. 1～2による ・（ ）

18 塗装工事

① 材料
屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆
⊙ 防火材料 ※ 屋内の壁、大井仕上げは防火材料とする。
次の箇所を除き防火材料とする。 (箇所：)
⊙ 塗膜表示通知に従う

② 素地ごしらえ (18. 2. 2～7)

下地面等		種別
木面	不透明塗料塗りの場合	※ A種 ・ B種
	透明塗りの場合	※ B種 ・ A種
鉄鋼面		※ C種 ・ A種 ・ B種
亜鉛めっき鉄面 (注)		※ B種 ・ A種 ⊙ B種
モルタル面及びプラスター面		※ B種 ・ A種
コンクリート面、ALCパネル面及び押出成形セメント板面		※ B種 ・ A種
せっこうボード面及び	日壁:錆止め共下塗	※ A種 ・ B種
その他ボード面	日壁:錆止め塗装共	※ B種 ・ A種

(注)亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえの種別

種別	施工部位及び塗料種別
A 種	鋼製の建具の場合又は2倍形鉛ウレタンエナメル塗
	装しくは油変化樹形ふっ素樹脂エナメル塗の場合
B 種	A種以外

③ 錆止め塗料塗り (18. 3. 2～3)

下地面等		工程の種別	塗料の種別
鉄鋼面	見え掛り部分	※ A種 ・ B種	⊙ A種 ・ B種
	見え隠れ部分	※ B種 ・ A種	EP－Gの場合
			※B種 ・ A種
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具	※ A種 ・ B種	⊙ A種 ・ B種
	鋼製建具以外	※ B種 ・ A種	・ C種
			EP－Gの場合
			※C種 ・ A種

④ 塗装 (18. 4. 1～18. 14. 2)

塗装		種別	塗料の種類
⊙ 合成樹脂調合ペイント塗り (SOP)	木部屋外	※ A種 ・ B種	※ 1種 ・ 2種
	木部屋内	※ B種 ・ A種	※ 1種 ・ 2種
	鉄鋼面	※ B種 ・ A種	※ 1種 ・ 2種
	亜鉛めっき鋼面	—	※ 1種 ・ 2種
・ クリヤラッカー塗(OCL)		※ B種 ・ A種	—
⊙ アクリル樹脂系非水分散型塗料塗り(NAD)		※ B種 ・ A種	—
・ 耐候性塗料塗り(DPP)	鉄鋼面	—	(塗り等級( )級
	亜鉛めっき鋼面	—	上塗り等級( )級
	コンクリート面及び	※ A種 ・ B種	—
	押出成形セメント板面	・ C種	
・ つや有合成樹脂エマルションペイント	コンクリート面等	※ B種 ・ A種	—
・ 樹脂(EP－G)	屋内の鉄鋼面	※ B種 ・ A種	—
⊙ 合成樹脂エマルションペイント塗(WP)		※ B種 ・ A種	—
・ 合成樹脂エマルション模様塗料塗り(UE－J)		※ B種 ・ A種	—
⊙ ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)		※ B種 ・ A種	—
⊙ オイルステン塗り(OS)	塗料	※ 水性	—
		・ 油性	
⊙ 木材保護塗料塗り(WP)		※ B種 ・ A種	—

19 内装工事

① 接着剤 ホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆
接着剤に含まれる可塑剤は、塗料塗性のものとする。 (19. 2. 2)

② ビニル床シート (19. 2. 2～3)

種類	JIS記号	色柄	特殊機能	厚さ	工法
・ 発泡層のないもの(複層ビニル床シート)	※ FS	・ 無地	・ 帯電防止	※ 2. 0	※ 熱溶接
	・ マーブル柄	・ 総動着重性		・ 突付け	
・ 発泡層のあるもの	・ 無地	・ 防滑性			
	・ 柄物	・ 耐薬品性			

日地処理する場合の寸法 ・熱溶接工法 ・

③ ビニル床タイル

JIS記号	色柄	寸法	特殊機能	厚さ
・ FT (複層ビニル床タイル)	・ 無地	⊙ 300角	・ 帯電防止	※ 2. 0
	・ 柄物	・ 450角	・ 防滑性	・ 2. 5
				・ 3. 0
※ KT (コンポジションビニル床タイル)	⊙ 無地	⊙ 300角	・ 帯電防止	⊙ 2. 0
	・ 柄物	・ 450角	・ 防滑性	・ 3. 0
・ FOA (溶接ビニル床タイル)	・ 無地	・ 300角	・ 帯電防止	・（ ）
	・ 柄物	・ 450角	・ 防滑性	

④ ビニル幅木 (19. 2. 2)

材種	厚さ	高さ
※ 軟質 ・ 硬質	※ 1. 5以上	※ 60 ・ 75 ・ 100 ⊙ 40

⑤ ゴム床タイル (19. 2. 2)

色柄	幅厚	辺さ	寸法(mm)
・（ ）	・ 3. 0 ・ 4. 5 ・ 6. 0 ・ 9. 0		・（ ）

R2.4.1 版

工事名	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設新築実施設計委託	共同企業体名称	o+h・産紘設計JV	代表者	大西麻貴＋百田有希／o＋h	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-10-1 TEL&FAX:03-6264-9876 一級建築士事務所 東京都知事登録第59514号 一級建築士第367943号 百田有希	図面名	特記仕様書 5	縮尺	A3 －	日付		No. A005

19 内装工事

⑥ カーペット敷き （19.3.1~3）

パイルの形状	種別	寸法	織厚さ(mm)	色柄	帯電性
※ ループパイル	※ 第一種	※ 500角	※ 6.5	※ 無地	※ 3KV以下
○ カットパイル	・ 第二種	・（　）	・（　）	・ 柄物	・ その他
・ カット、ループ併用					

タイルカーペットの敷き方　半一張　※ 市松敷き　○ 模様流し
階段部分　※ 模様流し　・ 市松敷き

見切り、打止め金物　○ 適用する　（材質、形状等 ※図示 ・　　）
・ 適用しない

7 合成樹脂塗床 （19.4.2~3）（表19.4.1、~8）

種別	工法	仕上げの種類
・ 厚模型塗床材 弾性ウレタン樹脂系 塗床		※ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ　・ つや消し仕上げ
・ 厚模型塗床材 エポキシ樹脂系塗床	・ 薄膜流し展べ工法 ・ 厚膜流し展べ工法 ・ 樹脂モルタル工法	・ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ
・ 薄硬型塗床材		※ 平滑仕上げ
・（　　）		

8 フローリング張り

単層フローリング （19.5.2）

種類	工法	張幅	厚さ	大きさ	仕上塗装
・ フローリング ボードK1等	・ 釘留め下張 （根太張り） ・ 釘留め上張 （直張り） ・ 接着工法	※ 挽 ・ なら	15 ・ 12以上	板幅7寸 板長さ500 以上	・ 染製品 ・ 塗膜製品
・ フローリング ブロック1等	・ 接着工法 ・ モルタル 埋込工法			※ 303角 ・（　　）	

開伏材の適用　・ 適用する　・ 適用しない

・ 複合フローリング　※ 人造木化粧
上張　・ 釘留め下張　（　・ 根太張り　・ 直張り　）
・ 接着工法
縁甲板　※ 挽　・ なら
種別　・ A種　・ B種　・ C種
開伏材の適用　・ 適用する　・ 適用しない

捨張工法の場合の裏面緩衝材　※ 合成樹脂発泡シート　・
現場塗装仕上げ　・ 行う（施工箇所　　）　・ 行わない
※ ウレタン樹脂ワニス塗り
※ オイルステンの上、ワックス塗り
・ 生地のままワックス塗り

9 畳敷き （19.6.2）（表19.6.1）

種別　・ A種　・ B種　※ C種　・ D種（畳床：　・ KT一　　）
下地の種類　・ 標仕表12.6.1による床組
・ ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン）

畳表及び縁according はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

⑩ せっこうボード その他ボード及び合板張り （19.7.2~3）（表19.7.1）

規格名称	種類	張general等
・ 木質系セメント板		
○ 繊維強化セメント板	図示による	図示
・ 火山性ガラス質板		
・ 繊維板		
・ パーティクルボード		
・ 吸音材料		
○ せっこうボード製品	図示による	図示

・ 普通合板
表板の樹種名　（　　）
板面の品質　（　　）
厚さ　（　　）
接着の程度　（　　）
防虫処理　・ 行う　・ 行わない

・ 天然木化粧合板
化粧板の樹種名（　　）
接着の程度　（　　）
厚さ　（　　）
防虫処理　・ 行う　・ 行わない

○ 特殊加工化粧合板
化粧加工の方法（○ オーバーレイ　・ プリント　・ 塗装　・　　）
表面性能　（　図示　）
接着の程度　（　図示　）
厚さ　（　図示　）
防虫処理　・ 行う　・ 行わない

せっこうボード等の下地は図示による
遮音シール材　・ 適用する　（　・ シーリング材　・ ジョイントコンパウンド　）
・ 適用しない
合板類の張付け　※ B種　・ A種
せっこうボードの目地工法　○ 仕上表による

11 壁紙張り （19.8.2）

施工箇所	壁張の種類	防火種別	商品名（程度）
		・ 不燃　・ 準不燃 ・ 不燃　・ 準不燃 ・ 不燃　・ 準不燃 ・ 不燃　・ 準不燃 ・ 不燃　・ 準不燃	

商品名は、品質の程度をポすための参考商品名である。

素地ごしらえの種別　（19.8.3）
モルタル及びプラスター面　・ A種　※ B種
せっこうボード面　・ A種　・ B種
コンクリート及びALC面　・ A種　※ B種

⑫ 断熱材 ○ 断熱材打込み工法 （19.9.2）

種類		厚さ(mm)
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材		
○ 押出法ポリエチレンフォーム断熱材（スキンなし）	十間コンクリート下部	30
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材		
・ フェノールフォーム断熱材		

○ 断熱材現場発泡工法 （19.9.3）

種類	厚さ(mm)	施工箇所
※ A種1	・ 25	※ 図示による
○ A種11	○ 30 ○ 60	

20 ユニット及びその他工事

1 フリーアクセスフロア （20.2.2）

構法	・ パネル構法　・ 連構法
寸法(mm)	※ 450角以上600角以下
高さ(mm)	※ 100　・ 110　（実施から仕上材天端までの寸法）
耐震性能	・ 1.0G　・ 0.6G
床定荷重(N)	※ 3000　・ 5000
表面仕上げ材	※ タイルカーペット　・ 帯電防止床タイル
床パネルの材質	※ アルミ合金ダイカスト製、スチール製又は複合材等
構造材の材質	・ アルミニウム製　・ 鋼製（仕上げ：　　）
配線出取り出し	フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合
パネル	・ 20~30%
配線経路引込	・ パネル1枚につき、40mm×80mm程度の開口1箇所以上
開口	・ 図示による
空調用吹き出し口	・ なし
（吸い込み）パネル	・ あり（形式、施工箇所：図示による）
ローリグロード性能	※ 適用しない　・ 適用する（適用室：　　）

2 可動間仕切

構造形式	構成基材の種類 スタンド	パネル	総厚さ(mm)	遮音性 (db)
・ スタッド式(内観)	・ アルミ	・ 木質系	※ 50以上	・ 6
・ スタッド式(露出)	・ スチール	・ スチール系	・（　）	・ 12
・ パネル式		・ ガラス系	※ 60以上	・ 20
・ スタッドパネル式		・ アルミハニカム合成系	・（　）	・ 28
				・ 36

表面仕上げ材

材質	厚さ(mm)	パネル表面仕上げ
・ 鋼板	・ 0.6	・ スタジン焼付塗装
・（　）	・ 0.8	スはアクリル樹脂焼付
		・ 壁紙張り

パネル内に収り付ける建具　・ 有り（※図示による）
・ なし

3 移動間仕切 （20.2.4）

操作方法	操作方法	総厚さ(mm)	表面仕上げ材 材質	パネル表面仕上	遮音性 (db/500Hz)
・ 手動式	・ プッシュ式	※ 60程度	・ 鋼板	※ 塗付塗装	・ 36未満
・ 電動式	・ ハンドル式	・ 100程度		・ 壁紙張り	・ 36以上
・ 部分電動式					

① トイレブース （20.2.5）

表面材の種類	脚部 形状	材質	上部フック 形状	材質
・ ポリエステル樹脂系化粧板	※ 脚本タイプ	・ 標準	・	・ アルミニウム製
		○ R		・ ステンレス製
			○	・ 表面材と同等

⑤ 視覚障害者用床タイル （11.2.2）（19.2.2）

	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)
屋内	・ 塩化ビニル製	○ 車椅被種型ステンレス製	○ 300角	・ 7.0
	・ 磁器質タイル	・ せっ器質タイル	
	・ レンジコンクリート製	・ コンクリート製	
屋外	・ 磁器質タイル	○ 車椅被種型ステンレス製		
	・ レンジコンクリート製	・ コンクリート製		

ブロックパターンはJIS T 9251による

⑥ 階段滑り止め （20.2.6）

材種	幅(mm)	取付け方法
・ ステンレス製(SUS304)ビニル仕入り	※ 35	※ 接着工法
○ コンクリート先端ラッター目地	○（　）	○ (カッター入れ)

⑦ 床目地棒 （20.2.7）

床仕上げの異なる箇所には目地棒を入れる。
※ ステンレス製　□ 型（幅40程度 r7.5）
○ ステンレス製　6×12　・ 真鍮製　6×12

⑧ 手すり

材種	表面仕上げ	直径(mm)	備考
○ タモ	○ クリアラッカー	・ 35	○ 1段手すり
・ ステンレスパイプ	・ HL	・ 45	・ 2段手すり
○ 鋼製パイプ	・ EP-G　・ SOP	○ (34)	
・ ビニル製ハンドレール	○ フッ素樹脂塗装		(振つり鉄止材共)

9 ホワイトボード （20.2.8）

種類	取付け方法	形状	備考
ほうろう引板	直付け	※ 平面 ・ 曲面	マーキングペン 受け付き

10 標案ラインング

・ 標準用成形ラインング材　適用安全使用温度 ※ 400℃　・ 650℃　（20.2.11）
・（　　）
・ キャスタブル耐火材　工法　・ こて押え　・（　　）

⑫ ブラインド （20.2.12）

形式	※ 標型ブラインド	・ 縦型ブラインド
開閉方式	※ ギヤ式　○ コード式　・ 操作棒式	※ 2本操作コード方式
スラットの幅	※ 25　・ 35	・ 80　・ 100

12 ロールスクリーン （20.2.13）

材種	操作方式	備考
※ ポリエステル	※ チェーン式	
・ 綿	・ プルコード式	
・ ガラス繊維	・ 電動式	

20 ユニット及びその他工事

13 カーテン （20.2.14）（表20.2.1）

形式	開閉操作	ひだの種類	さね織の種類
・ シングル　・ 片引き	※ 手引き	・ フランスひだ	立見、整流加工
・ ダブル　・ 引分け	・ ひも引き	・ 箱ひだ、つまひだ	
	・ 電動	・ プレーンひだ、片ひだ	

⑭ カーテンレール
材種　※ アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成形材(アルマイト仕上げ)　（20.2.14）
・ ステンレス製
形状　※ 角壁

⑮ カーテンボックス
材質　・ アルミニウム製既製品　（　・ シルバー　・ 巻色　）
○ 鋼製
・ 木製

⑯ コーナービード （壁ボード出隅保護金物）
材質　※ アルミニウム押出形材言込型　○ 塩化ビニル製（塗装用）
※ シルバー　・ 金付　○（　ホワイト　）
・ コーナー保護金物付きジョイントテープ

⑰ 人井足切縁
材質　・ アルミニウム押出形材
※ 塩化ビニル製
施工箇所　※ 仕上表による　・（　　）

⑱ 点検口

形式	材種	寸法	形式	備考
天井	※ アルミニウム製	※ 450角	・ 般形	○ 鍵付き
	・	○ 600角	○ 目地形	
床	※ アルミニウム製目地	・ 450角	・ 目地形	
	・ ステンレス鋼製目地	※ 600角	○ 防水、防臭用	

⑲ 収納・収納家具
合板類
ホルムアルデヒド放出量　※ F☆☆☆　・（　　）
ミディアムデンシティファイバーボード(MDF)及びパーティクルボード

⑳ 消火器ボックス
※ 市販品(埋込みタイプ)

材質	仕上	寸法	扉	表示
※ 鋼製	※ 塗付塗装	※ W300×H960程度	※ 有り	※ 絵・文字表示
	・		・	・

21 ステンレス流し台
※ 市販品　・ 優良住宅部品(セクショナルキッチン)
上板及びシンク底部はステンレス製、単槽シンク、トラップ付

22 コンロ台
※ 市販品　・ 優良住宅部品(セクショナルキッチン)
テーブルトップはステンレス製、バックガード　（ ※ 有り　・ 無し ）

23 吊戸棚
※ 市販品　・ 優良住宅部品(セクショナルキッチン)

24 水切棚
※ 既製品ステンレス製　般型　・（　　）

25 くつふきマット
材種　・ ステンレス製ノンスリップ製（縁金物　：ステンレス製）
・ 硬質アルミニウム製（縁金物　：硬質アルミニウム製）
・ 塩化ビニル製またはゴム製（縁金物　：ステンレス製）

26 旗竿

材質	形状	操作方法	固定方法	備考
※ アルミニウム合金製	・ ゲーパー式	・ ロープ式	・ 埋込式	
・	・ 同一断面式	・ ハンドル式	・ ベース式	
			・ バンド式	

27 旗竿受金物
材種　※ ステンレス製(SUS304)

28 フェンス
フェンスの種類　○ ピッキ返優エキスパンドフェンス
・ 樹脂塗装メッシュフェンス
・ 鋼製フェンス
・ アルミフェンス

29 敷地境界標
・ 花こう岩(文字記り入り)
・ コンクリートブロック製の化粧基礎
・ 金属製(鉄ちゅう型50角　アンカー共)

30 止水板
形状　○ 片込式　・ 割込式　・ 埋殺り式

21 排水工事

① 屋外雨水排水管
材種　・ 遠心力鉄筋コンクリート管　（21.2.1）（表21.2.1）
○ 硬質ポリ塩化ビニル管　（ ※ VP　○ VU　・ RS-VU ）
・ 排水用リサイクル硬質塩化ビニル管

② 鋳鉄製ふた （21.2.1）

種型	適用荷重	錠
・ 木目形	○ T-2用	・ 有り
○ 簡易密閉形(パッキン形)	・ T-6用	○ 無し
・ 密閉形(テーパパッキン形)	・ T-20用	
・ 半ふた付き密閉形(テーパ・パッキン形)	・	

上記以外の荷重等は(公社)空気調和衛生工学会SHASE-S209による。
※ 表面には用途別の標準文字付きとする。

③ グレーチング （21.2.1）

材質	形式	用途	適用荷重	メインバーピッチ	有効かっき(付着量)	上面形状
○ 鋼製	○ 受枠付き、ボルト固定	○ 溝ふた（側溝用）	・ 歩行用	・ 細め	・（　）	・ 凹凸形
・ ステンレス製	・ 受枠共	○ 溝ふた（横断用）	○ T-2用	・ 普通H		○ 平形
		・ 桝ふた	・ T-6用	・ 細め		
		・ U字溝用	・ T-14用			
			・ T-20用			

④ 脚尻土
※ B種　・（　　）

22 舗装工事

① 路床
路床の材料 （22.2.2~3）

種別	材料
○ 盛土	・ A種　※ B種　・ C種　・ D種　・ 建設汚泥から再生した処理土
・ 路上前部層	・ 再生クラッシャラン　・ クラッシャラン
・ フィルター層	・ 川砂、海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過量10%以下)
	・ 川砂、海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過量10%以下)

試験　砂の粒度試験　・ 行う　○ 行わない　（22.2.5）
路床度の支持力比(CBR)試験　○ 行う　・ 行わない
路床締固め度の試験　○ 行う　・ 行わない

② 路盤
路盤の材料 （22.3.3）
・ 砕石　C-40
※ 再生クラッシャラン　RC-40
・ クラッシャラン鉄鋼スラグ　CS-40
試験　路床締固め度の試験　・ 行う　・ 行わない　（22.3.5）

3 アスファルト補装 （22.4.4）
加熱アスファルト混合物の種類
一般地域　・ 密粒度アスファルト混合物　(13)
・ 細粒度アスファルト混合物　(13)
シールコートの乳剤の種別　・ PK-1　・ PK-2　（22.4.5）
試験　アスファルト混合物等の抽出試験　・ 行う　・ 行わない　（22.4.6）

④ コンクリート補装
早強セメント　※ 使用しない　・ 使用する　（22.5.3）
路接合剤　※ 使用しない　・ 使用する
試験　コンクリート板の曲ちの試験　○ 行う　・ 行わない　（22.5.6）
○ 骨材は底レイ材とすること
・ コンクリート平版舗装　（22.8.2~3）
・ インターロッキングブロック補装

⑤ ブロック等補装

⑥ 車止め
車止め用既製コンクリート W200×L600×H120 小型反射板付き
今血接着アンカー併用固定(樹脂込み30mm厚込み65mm以上)

⑦ 区画線等
トラフィックペイント　JIS規格品
※ 溶剤型（r1.5）　・ 加熱型（r1.0程度）
区画幅員　※ 150　・（　　）
○ 身障者専用駐車スペース表示（1300角）
・ 駐車スペースナンバー表示（350角）

23 植栽及び屋上緑化工事

1 植栽地の確認等
土壌の水素イオン濃度(pH)試験　・ 行う　・ 行わない　（23.1.3）
水溶性塩類(EC)の試験　・ 行う　・ 行わない

2 植栽基盤の整備
土壌改良材　・ 適用する　・ 適用しない　（23.2.2）

3 植込み用土
※ 隔設客土上の良質土　・ 客土　（23.2.3）

4 土壌改良材
・ 適用する(施工箇所　※図示による)　（23.2.3）

5 芝
種類　※ コウライ芝　・ ノシバ　（23.4.2）

6 樹木孔
図示による

7 植栽樹木などの補植え
※ 引渡し日から1年
・（　　）

8 その他
上記以外は、熊本県営繕積算 t 事仕様書（平成9年版）による。

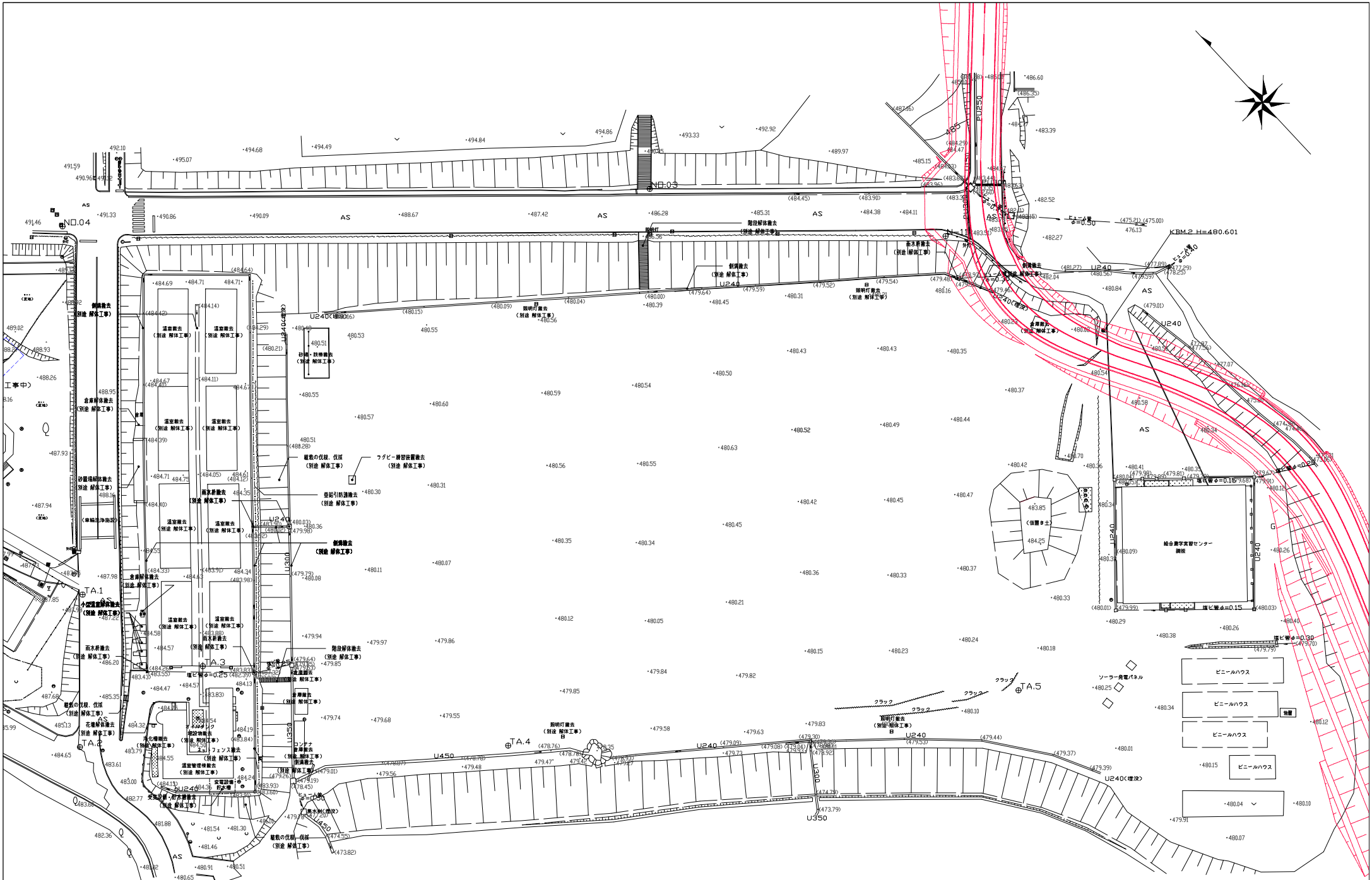
工事区分
別記ー1の記入上の注意　鉄筋箇所は●(黒塗り)とし、特記しない工事内容及び区分欄は斜線消去すること
別表ー1　　設備工事との工事区分表

工事内容			建築工事	電気設備工事	機械設備工事	その他
機器の基礎	電気関係	配電盤・制御盤の基礎 屋内	／	●	／	／
		屋外	／	●	／	／
		屋上	／	／	／	／
		自家発電機の基礎(アンカーボルトを除く)	／	／	／	／
		テレビアンテナ基礎(　〃　)	／	／	／	／
		避雷針の基礎(　〃　)	／	／	／	／
	機械関係	屋内設備(架台、アンカーボルトを除く)	／	／	●	／
		屋上設備　〃　)	／	／	●	／
		屋外設備　〃　)	／	／	●	／
	架台、アンカーボルト		／	●	●	／
	特記した基礎		●	／	／	／
開口部	梁、はり、壁	補強を要するもの	／	●	●	／
	貫通スリーブ	補強を要しないもの	／	●	●	／
	梁、床、壁	補強を要するもの	●	／	／	／
	貫通配管枠	補強を要しないもの	●	／	／	／
	軽量鉄骨下地、壁、	補強を要するもの	●	／	／	／
	天井ボード製の切込	補強を要しないもの(アウトボックス共)	●	／	／	／
	埋込形分電盤、	補強を要するもの	●	／	／	／
	端子盤等の埋格	補強を要しないもの	●	／	／	／
	上記開口部の補強		●	／	／	／
	上記開口部の補用し		／	●	●	／
	スリーブからの埋め（壁枠のない埋め込む）		／	●	●	／
	フリーアクセスフロア用配線箱具		／	／	／	／
点検口	床、壁、天井		●	／	／	／
外部取付ガラリ	ダクト、チャンバーの機能用ブランクを含む		●	／	／	／
雨漏型のフード			／	／	／	／
換気扇の取付枠			／	／	●	／
誤し口	排水トラップ止		●	／	●	／
防油堤	オイルサービスタンクの防油堤	自家発用	／	／	／	／
	タンク基礎	空調用	／	／	／	／
床下水槽のマンホールふた			●	／	／	／
屋外排水管	雨水		●	／	／	●
	汚水、雑排水		／	／	●	●
雨水立管（たてひい）			／	／	●	／
トイレ手すり			／	／	●	／
化粧かがみ			／	／	●	／
はめ込形配置換用カウンター（前板共）			●	／	／	／
ガスボンベ転倒防止鎖の鎖			／	／	／	／
電気配管配線	自動ドア及び遠動シャッタなどの制御源と操作スイッチ間の配管配線及び操作スイッチ		●	／	／	／
	防火扉リミット		／	●	／	／
	電触錠		／	／	●	／
	配管ピット及びふた		●	／	／	／
	機器などへの接続（1次側）		／	●	／	／
	機器付属の制御機以降の立体間の配線配管（壁埋共）		／	／	●	／
	機器引込の制御盤への電源引込配管配線		／	●	／	／
	自動制御盤と動力盤との電源供給の電線管配線		／	●	／	／
	自動制御盤と個力盤との操作回路の渡り配管配線		／	●	／	／
	天井吊の部FCU、個別パッケージ、全熱交換ユニット等の機器と付属操作スイッチとの渡り配線（接地共）		／	●	／	／
	天井吊の部FCU、個別パッケージ、全熱交換ユニット等の機器と付属操作スイッチとの渡り配線		／	／	●	／
	天井吊の部FCU、個別パッケージ、全熱交換ユニット等の機器と付属操作スイッチ		／	／	●	／
	天井吊の部FCU、個別パッケージ、全熱交換ユニット等の機器と付属操作スイッチの渡ボックス		／	●	／	／
	個別パッケージの室内機、室外機間の渡り配線(接地共)		／	／	●	／
	冷温水器から遠動制御盤を経て個別パッケージに至る配管配線		／	／	／	／
	小規模用給水装置の制御盤以降の2次側の配管配線		／	／	●	／
ガス漏れ検知器			／	／	／	／
電気錠	電気錠及び遠電金具		／	／	／	／
	TTINキー及び制御盤		／	／	／	／
エレベーター出入口三方枠（金属製）			／	／	／	／
エレベーター出入口三方枠（石製）			／	／	／	／
シャフトユニット、バスユニット、洗濯機パン			／	／	／	／
システム天井	ボード・下バー		／	／	／	／
	照明ライン設備プレート		／	／	／	／
	空調ライン設備プレート		／	／	／	／

R2.1.1 版

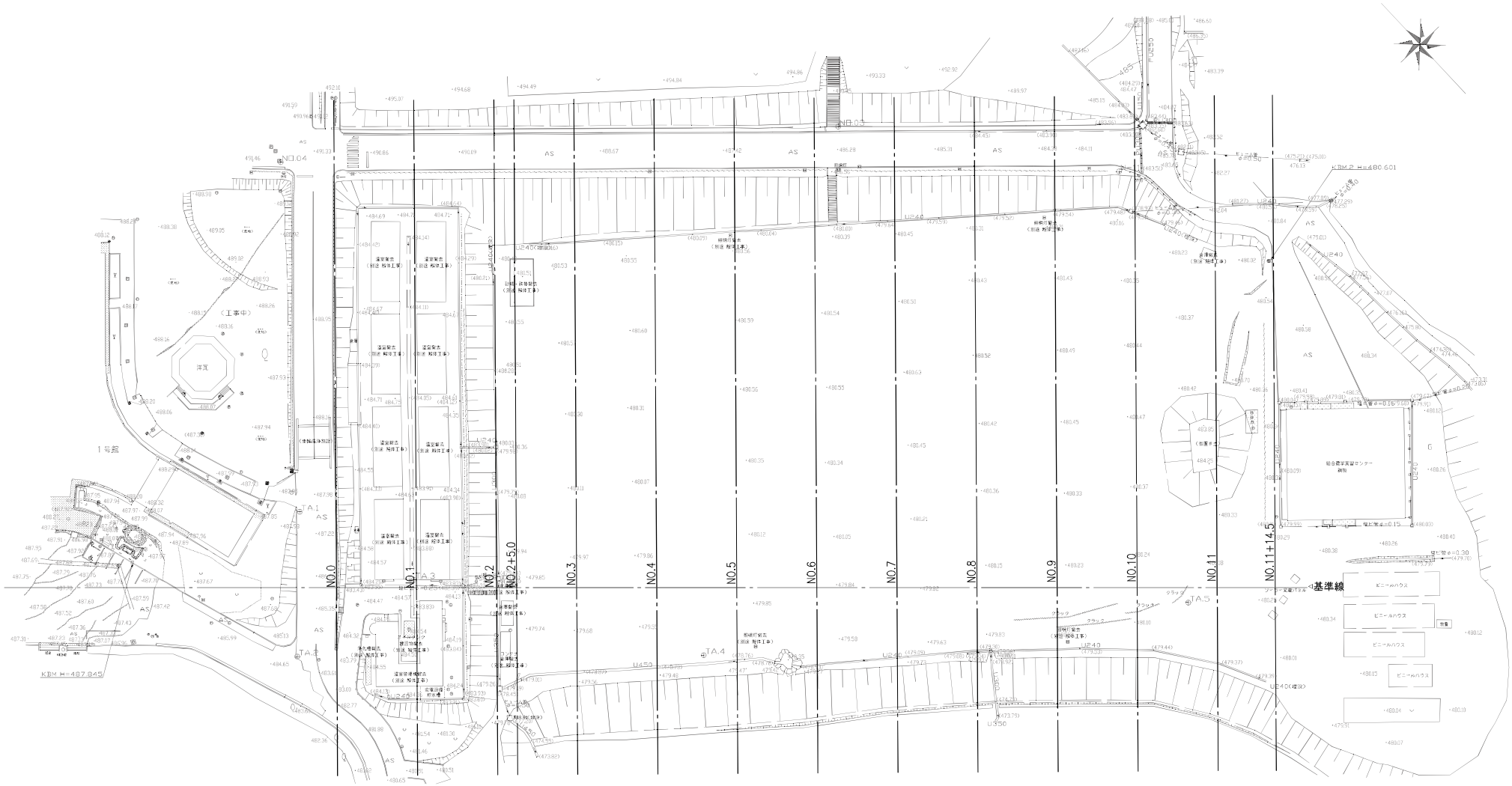
工事種別	仕上材料・適用項目	仕様	同等品／参考メーカー				
			商品名／品番／認定番号	メーカー名	メーカー名	メーカー名	備考
屋根及びとい工事	タイル屋根下地	無機質系発泡断熱材タイル屋根工法	レオトップ	東邦レオ	平島	菱樹商会	
	タイル屋根	A004特記仕様書4参照		水野製陶園	杉江製陶	復元屋	
金属工事	点字鋲	樹脂被覆型ステンレス材	誘導：JL290-17,警告：JL23-12	エムアンドエフ	杉田エース	サンゲツ	
左官工事	ショットブラスト加工			フタミ	アスト	駿河コーポレーション	
カーテンウォール工事	カーテンウォール			デバイス	トータル	タミヤ製作所	
塗装工事	ケイ酸塩系ステイン着色被膜材		アクアカラー	アッシュフォードジャパン	駿河コーポレーション	カイノ	
内外装工事	ガラス繊維ネット入モルタル板		デラクリートセメントボード	吉野石膏	チヨダウーテ	日本フネン	

工事名	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設新築実施設計委託	共同企業体名称	o+h・産紘設計JV	代表者	大西麻貴＋百田有希／o＋h	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-10-1 TEL&FAX:03-6264-9876 一級建築士事務所 東京都知事登録第59514号 一級建築士第367943号 百田有希	図面名	メーカーリスト	縮尺	A3 －	日付		No. A007

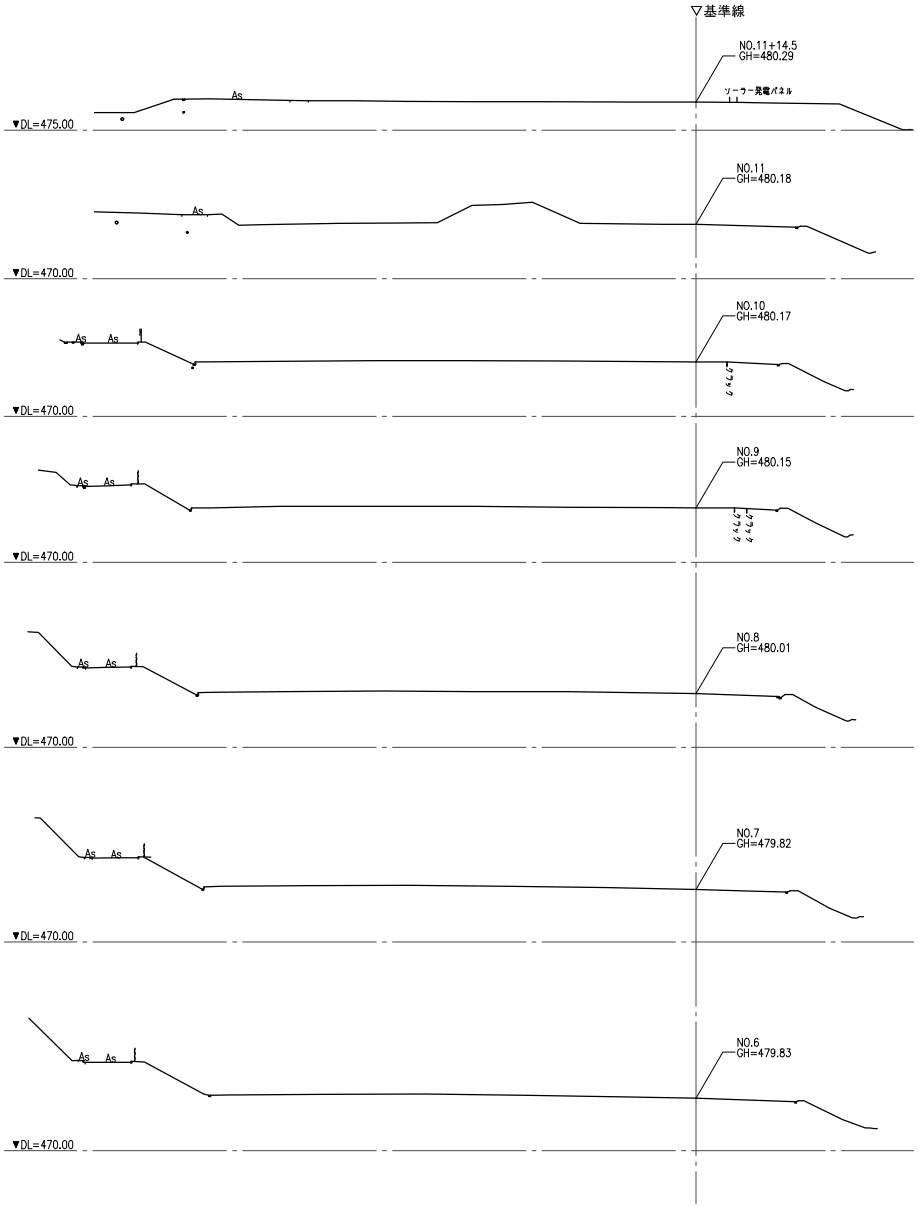


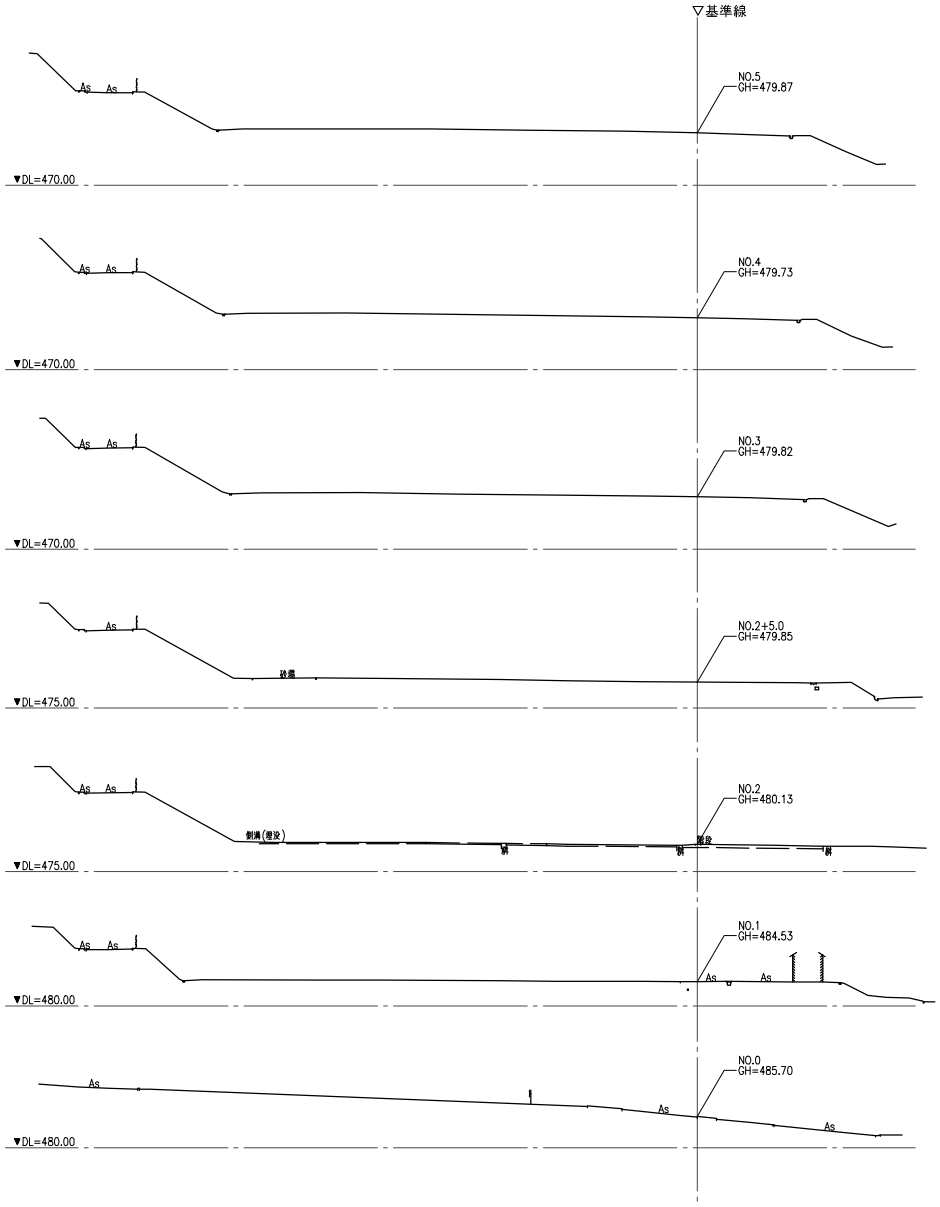
部：道路工事（別途工事）範囲を示す。

工事名	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設新築実施設計委託	共同企業体名称	o+h・産紘設計JV	代表者	大西麻貴＋百田有希／o+h	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-10-1 TEL&FAX:03-6264-9876 一級建築士事務所 東京都知事登録第59514号 一級建築士第367943号 百田有希	図面名	現況図	縮尺	A3 1:800	日付		No. A008

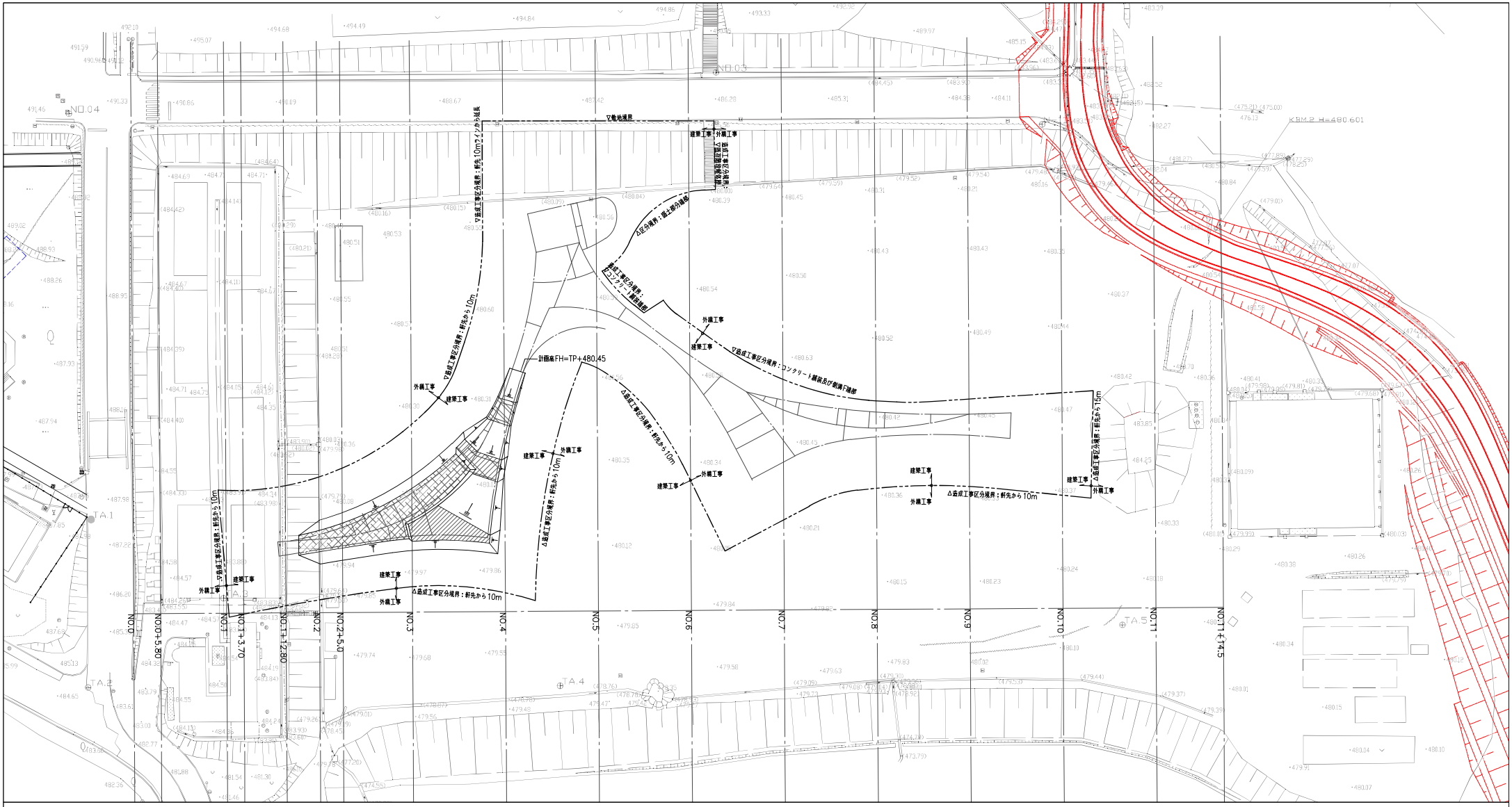


工事名	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設新築実施設計委託	共同企業体名称	o+h・産紘設計JV	代表者	大西麻貴＋百田有希／o+h	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-10-1 一級建築士事務所 東京都知事登録第59514号	TEL&FAX:03-6264-9876 一級建築士第367943号 百田有希	図面名	現況断面図キープラン	縮尺	A3 1/1000	日付		No. A009





工事名	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設新築実施設計委託	共同企業体名称	o+h・産紘設計JV	代表者	大西麻貴＋百田有希／o＋h	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-10-1 一級建築士事務所 東京都知事登録第59514号 TEL&FAX:03-6264-9876 一級建築士第367943号 百田有希	図面名	現況断面図	縮尺	A3 1/1000	日付		No. A010



凡例

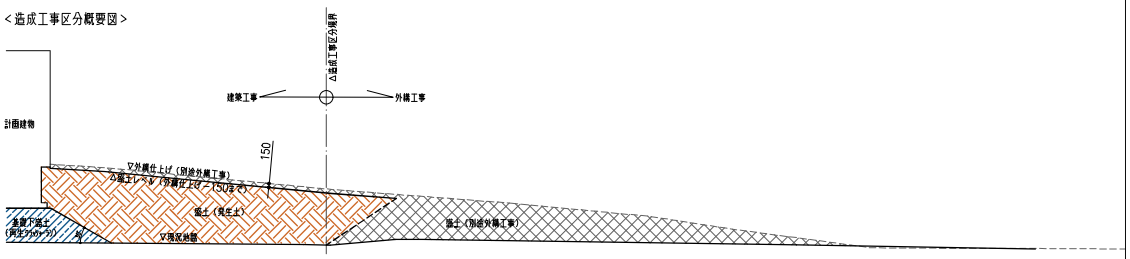
造成計画高（基礎下の盛り土）

- TP+480.48
- TP+480.80
- TP+481.00
- TP+481.30

―――― 部：道路工事（別途工事）範囲を示す

・本図面は基礎下の盛り土範囲を示す。
・基礎下の盛り土材は再生クラッシャーランとし、転圧の仕様は公共工事標準仕様書を参照する。
・再生クラッシャーランの法勾配は30°以下とする。
・外構仕上げレベルはA901 外構図を参照

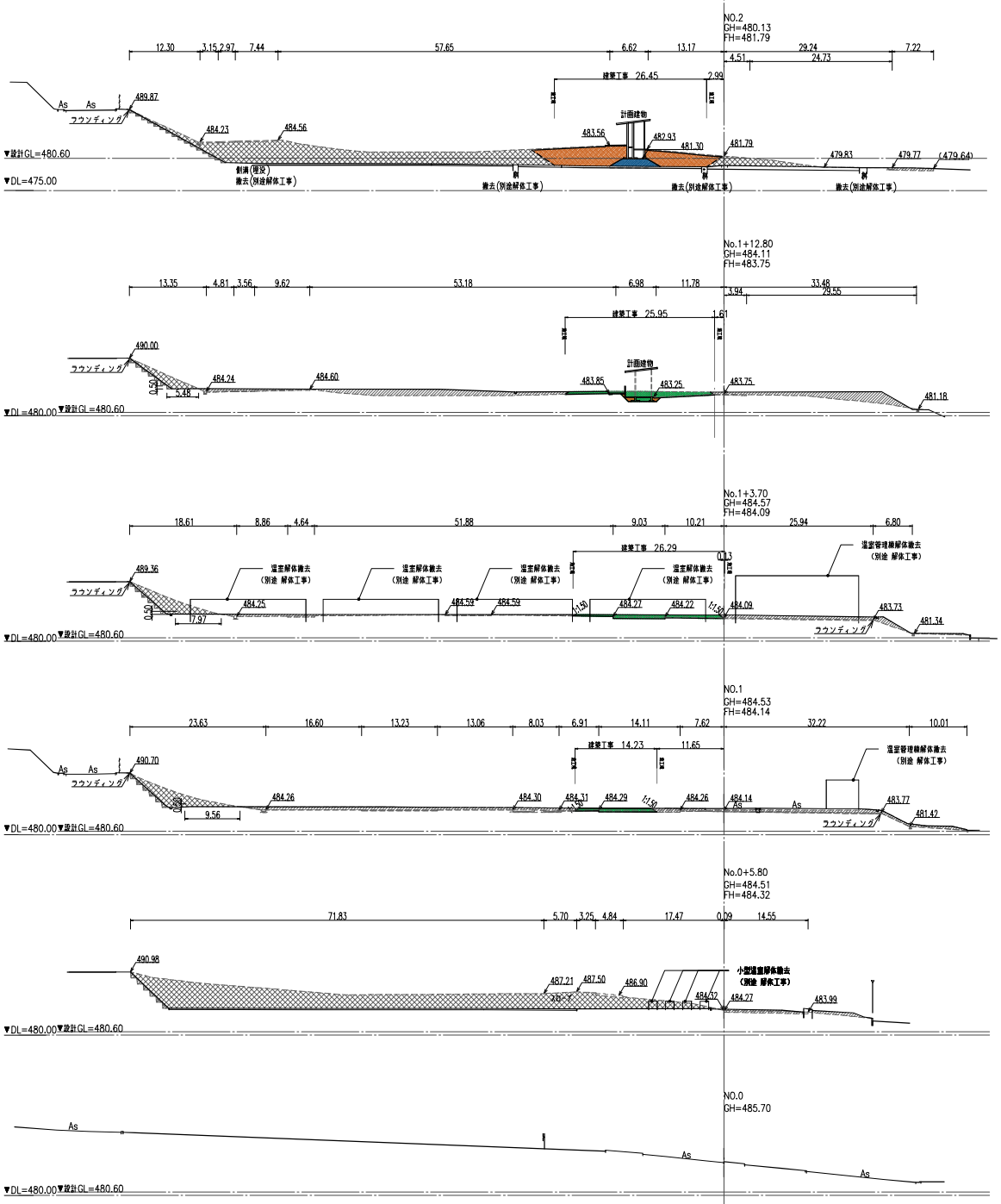
＜造成工事区分概要図＞



工事名	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設新築実施設計委託	共同企業体名称	o+h・産紘設計JV	代表者	大西麻貴＋百田有希／o+h	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-10-1 TEL&FAX:03-6264-9876 一級建築士事務所 東京都知事登録第59514号 一級建築士第367943号 百田有希	図面名	造成計画図	縮尺	A3 1:800	日付		No. A011

凡　例

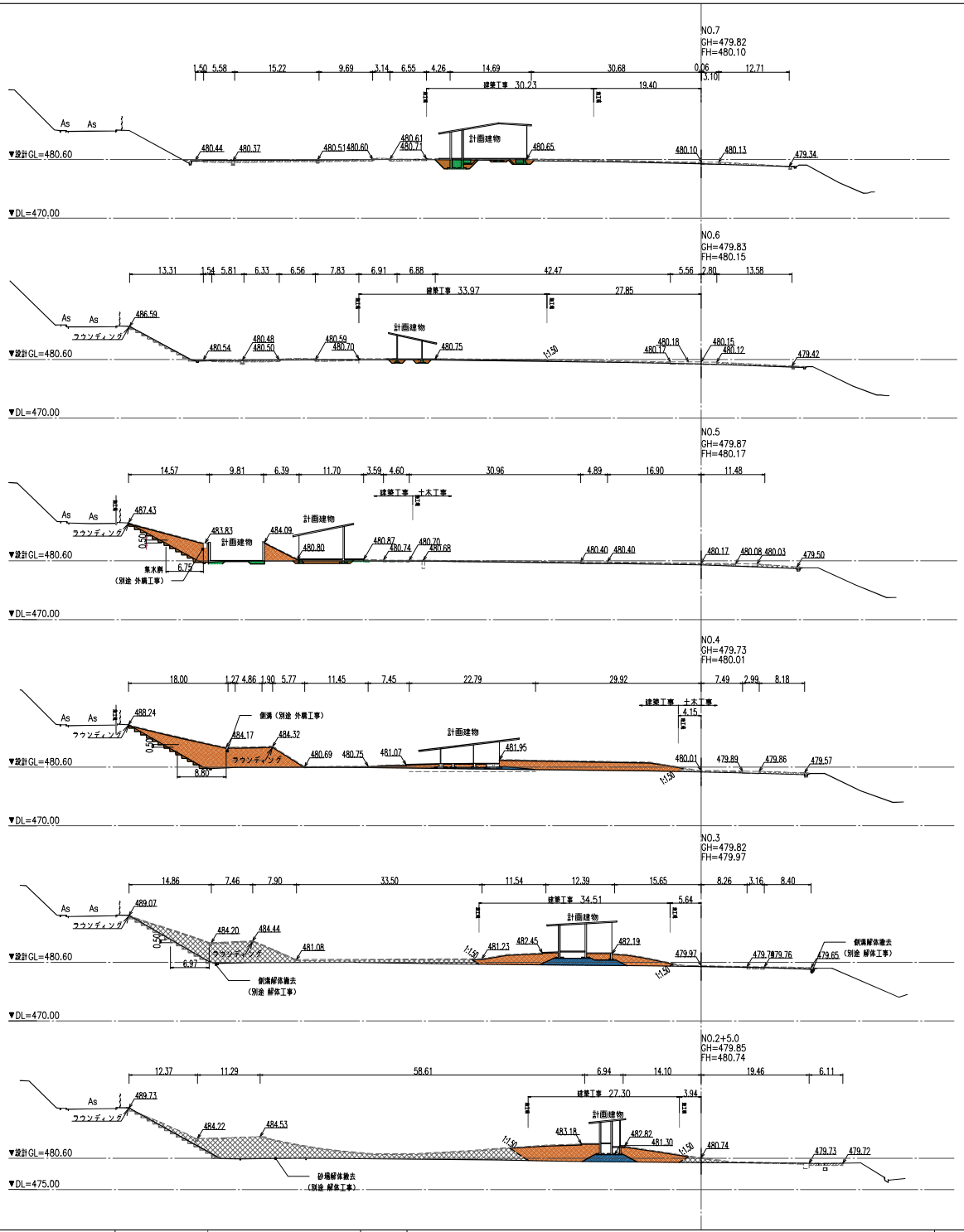
外構工事（別途工事）	掘　　削	
	盛土（発生土）	
建築工事	掘　　削	
	基礎下盛土（再生ﾌﾗｯｼｬｰﾗﾝ）	
	盛土（発生土）	



工事名	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設新築実施設計委託	共同企業体名称	o+h・産紘設計JV	代表者	大西麻貴＋百田有希／o+h	〒103-0007　東京都中央区日本橋浜町3-10-1 一級建築士事務所　東京都知事登録第59514号	TEL&FAX:03-6264-9876 一級建築士第367943号　百田有希	図面名	造成計画断面図1	縮尺	A3　1:800	日付		No. A012

凡 例

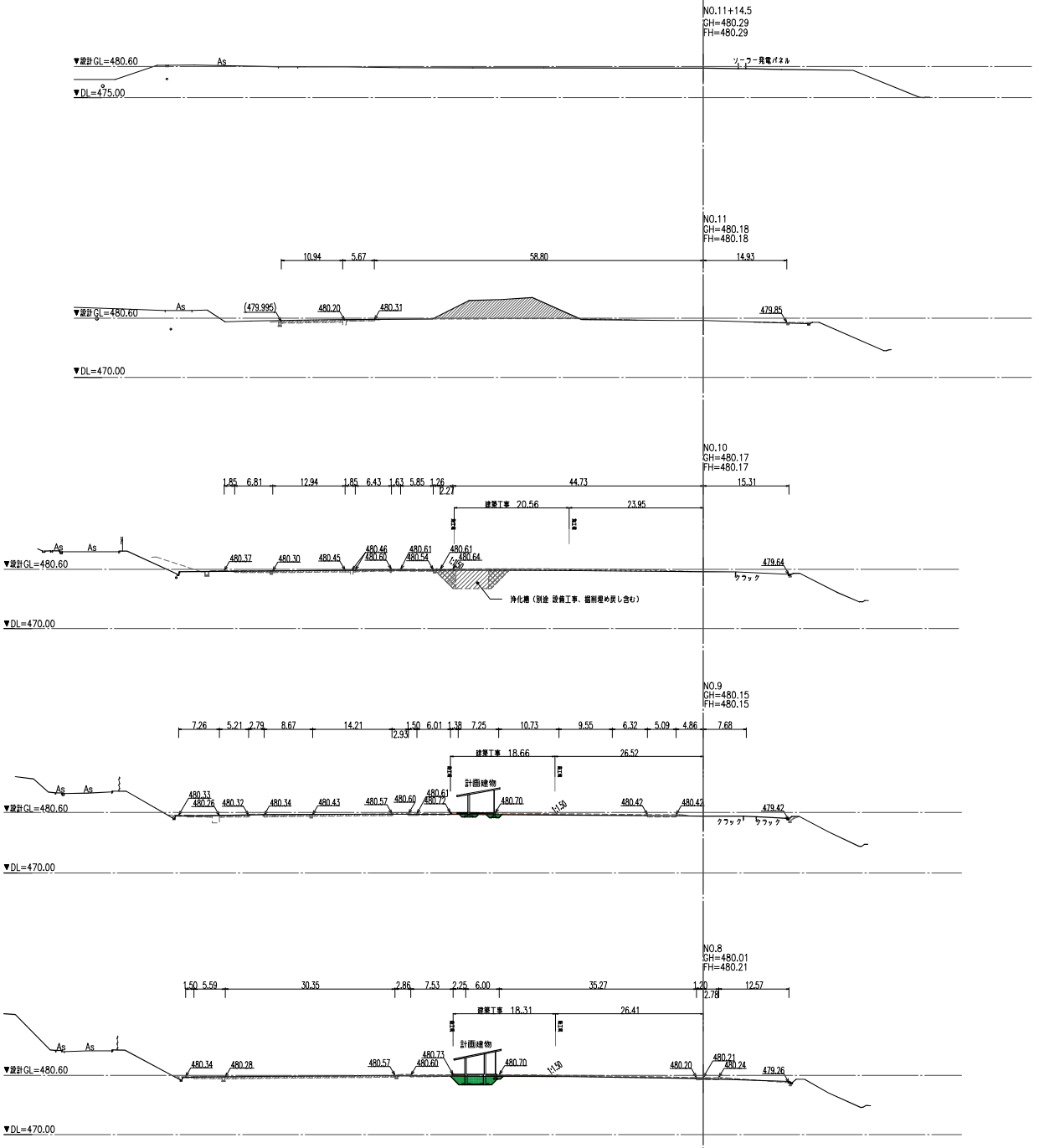
外構工事（別途工事）	掘　削	
	盛土（発生土）	
建築工事	掘　削	
	基礎下盛土（再生ｸﾗｯｼｬｰﾗﾝ）	
	盛土（発生土）	



工事名	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設新築実施設計委託	共同企業体名称	o+h・産紘設計JV	代表者	大西麻貴＋百田有希／o+h	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-10-1 一級建築士事務所 東京都知事登録第59514号	TEL&FAX:03-6264-9876 一級建築士第367943号 百田有希	図面名	造成計画断面図2	縮尺	A3 1:800
日付		No. A013									

凡 例

外構工事（別途工事）	掘　削	
	盛土（発生土）	
建築工事	掘　削	
	基礎下盛土（再生ｸﾗｯｼｬｰﾗﾝ）	
	盛土（発生土）	



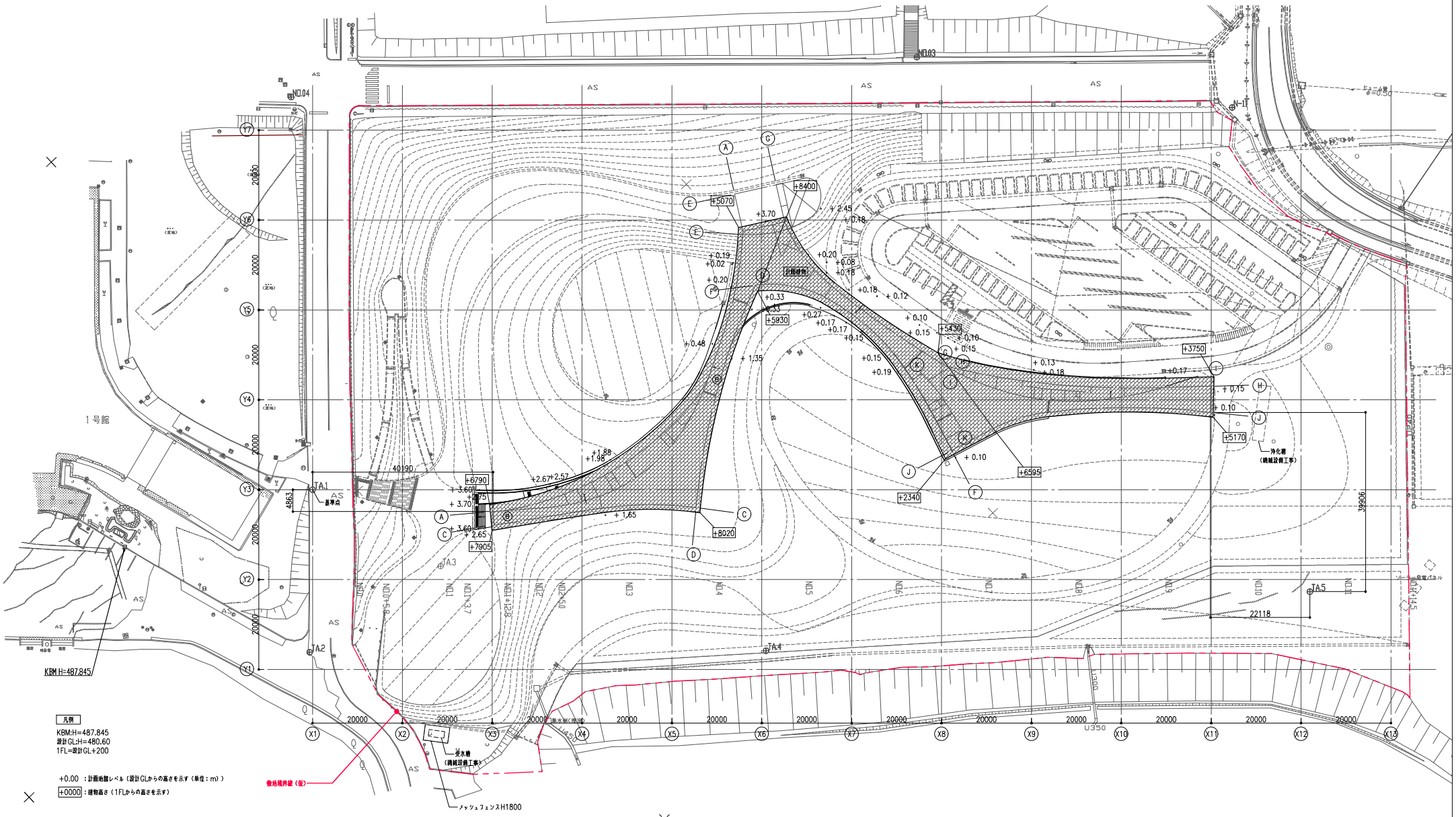
工事名	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設新築実施設計委託	共同企業体名称	o+h・産紘設計JV	代表者	大西麻貴＋百田有希／o＋h	〒103-0007　東京都中央区日本橋浜町3-10-1 一級建築士事務所　東京都知事登録第59514号	TEL&FAX:03-6264-9876 一級建築士第367943号　百田有希	図面名	造成計画断面図3	縮尺	A3　1:800	日付		No. A014



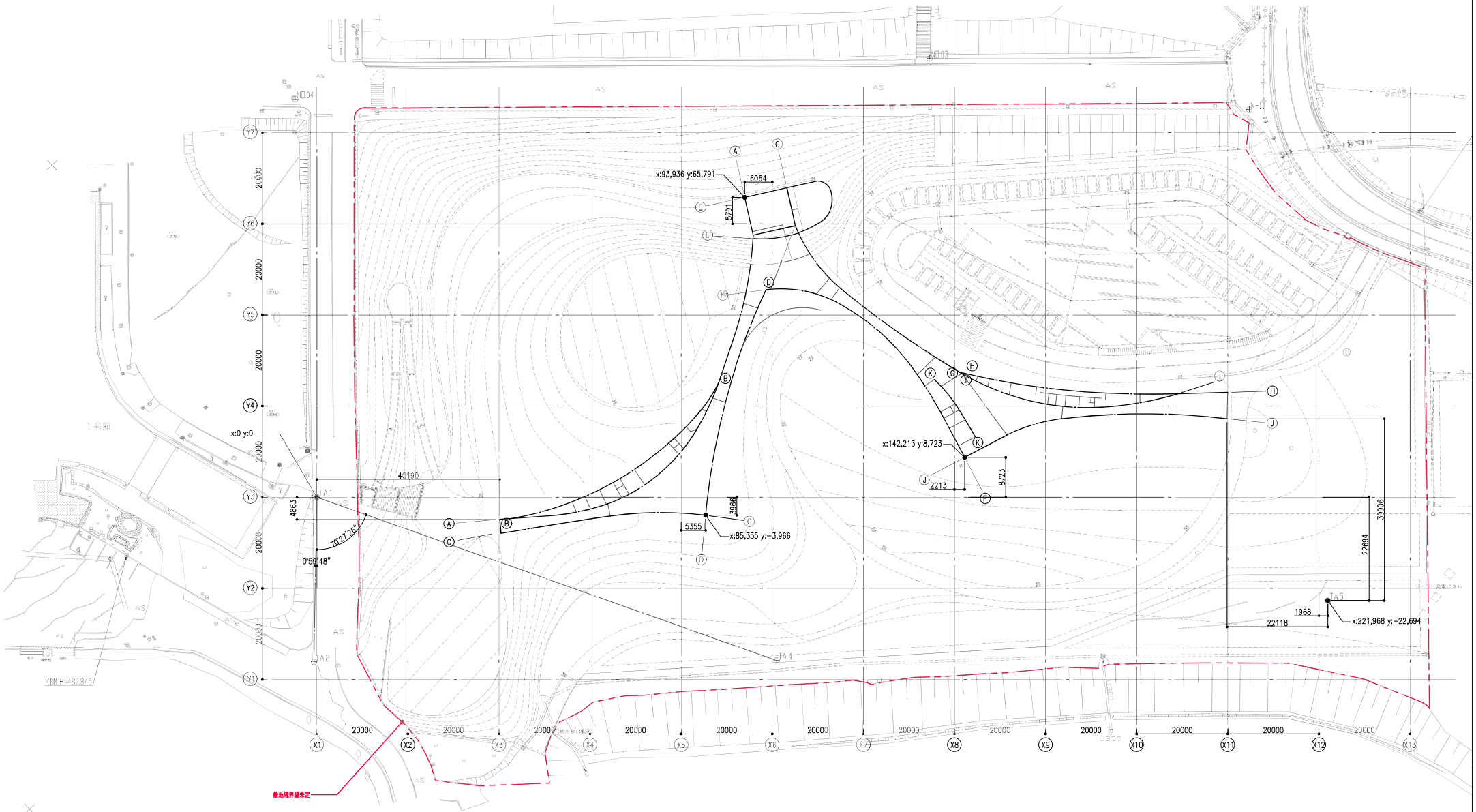
——：敷地境界（仮）を示す
敷地面積（仮）：約29,400m2

参考図

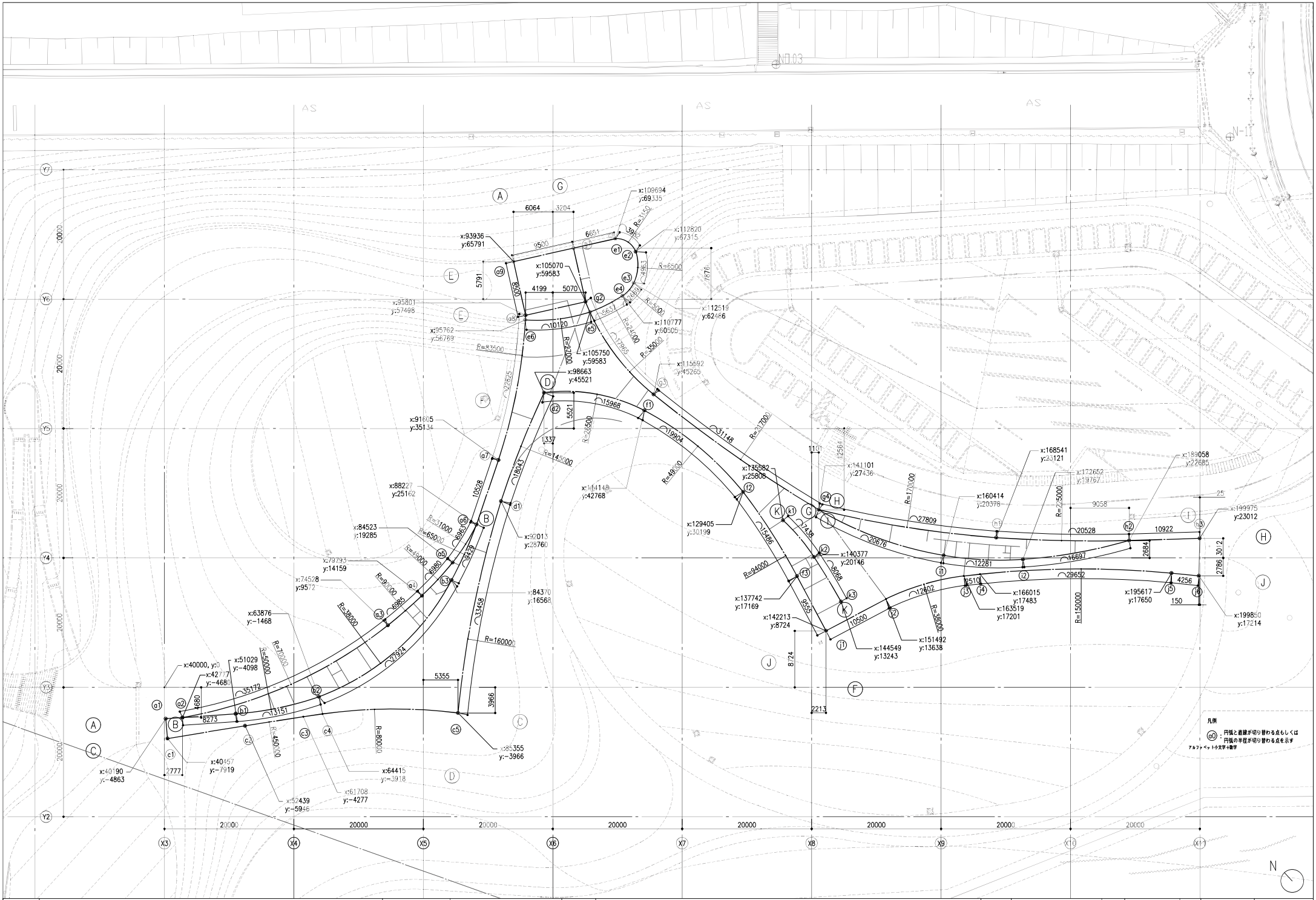
工事名	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設新築実施設計委託	共同企業体名称	o+h・産紘設計JV	代表者	大西麻貴＋百田有希／o+h	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-10-1 一級建築士事務所 東京都知事登録第59514号	TEL&FAX:03-6264-9876 一級建築士第367943号 百田有希	図面名	敷地面積求積図	縮尺	A3 1:800	日付		No. A015



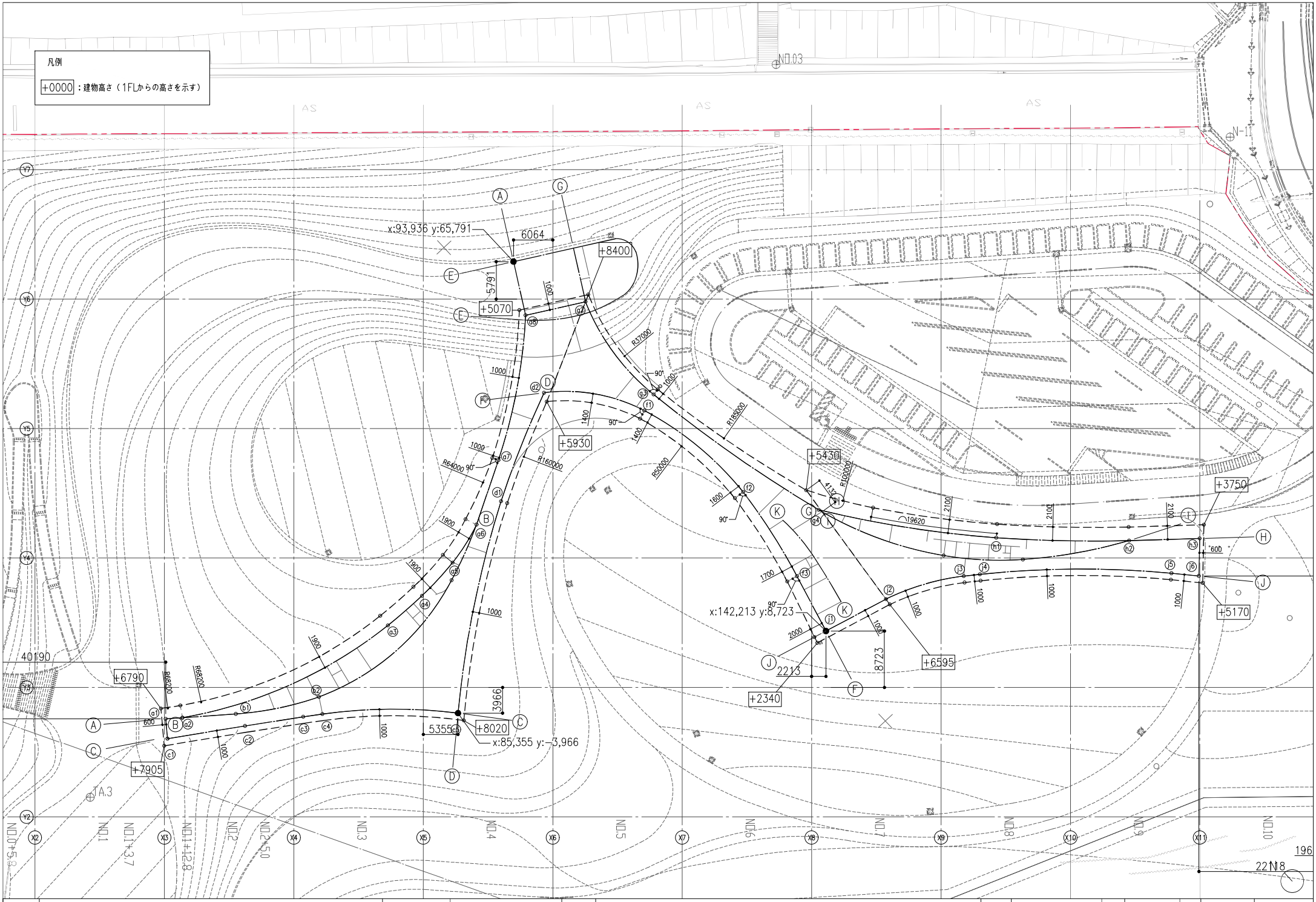
工事名	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設新築実施設計委託	共同企業体名称	o+h・産紘設計JV	代表者	大西麻貴＋百田有希／o+h	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-10-1 TEL&FAX:03-6264-9876 一級建築士事務所 東京都知事登録第59514号 一級建築士第367943号 百田有希	図面名	配置図	縮尺	A3 1:800	日付		No. A016



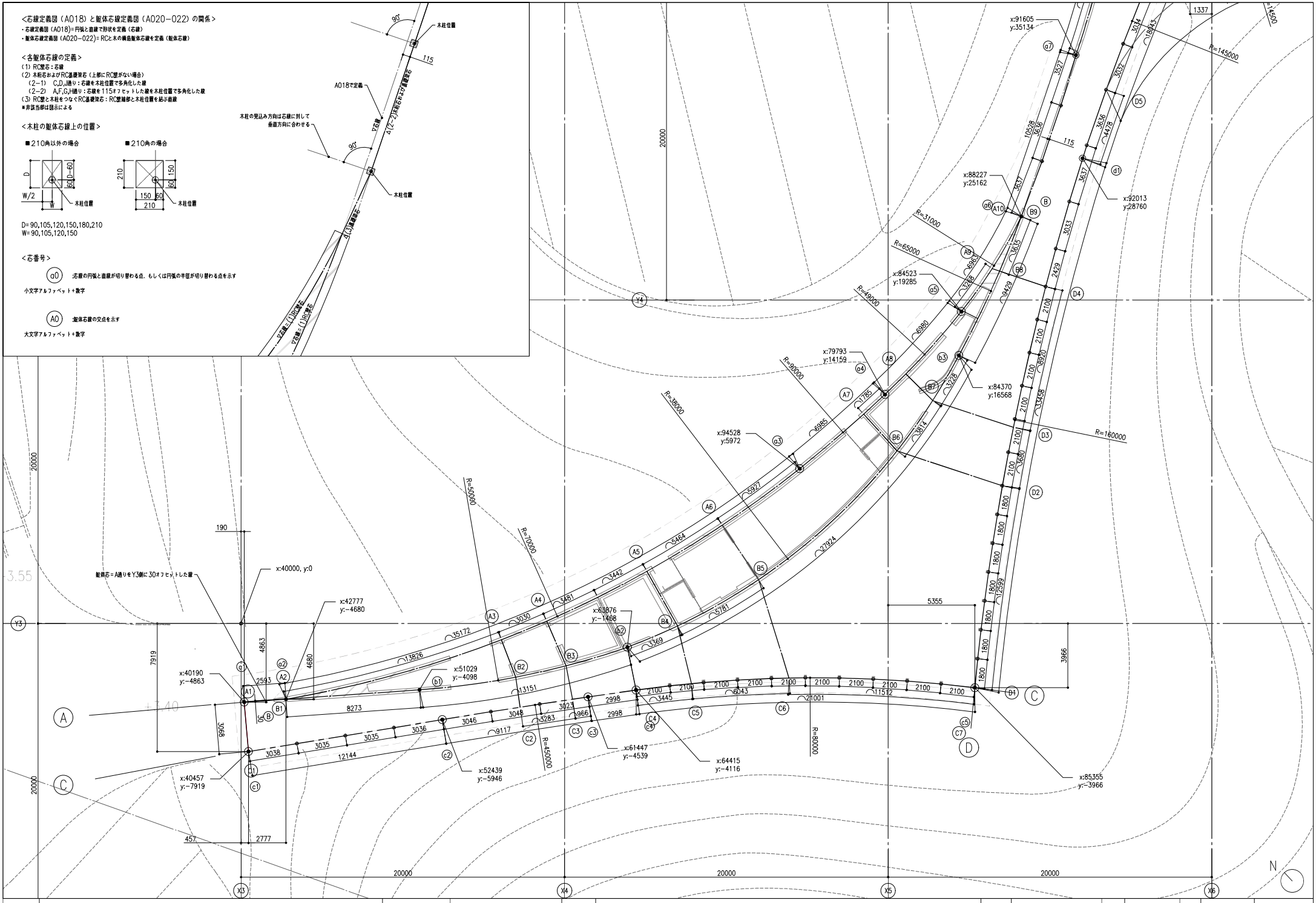
工事名	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設新築実施設計委託	共同企業体名称	o+h・産総設計JV	代表者	大西麻貴＋百田有希／o+h	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-10-1 TEL&FAX:03-6264-9876 一級建築士事務所 東京都知事登録第59514号 一級建築士第367943号 百田有希	図面名	芯線定義図-(配置図)	縮尺	A3 1:800	日付		No. A017



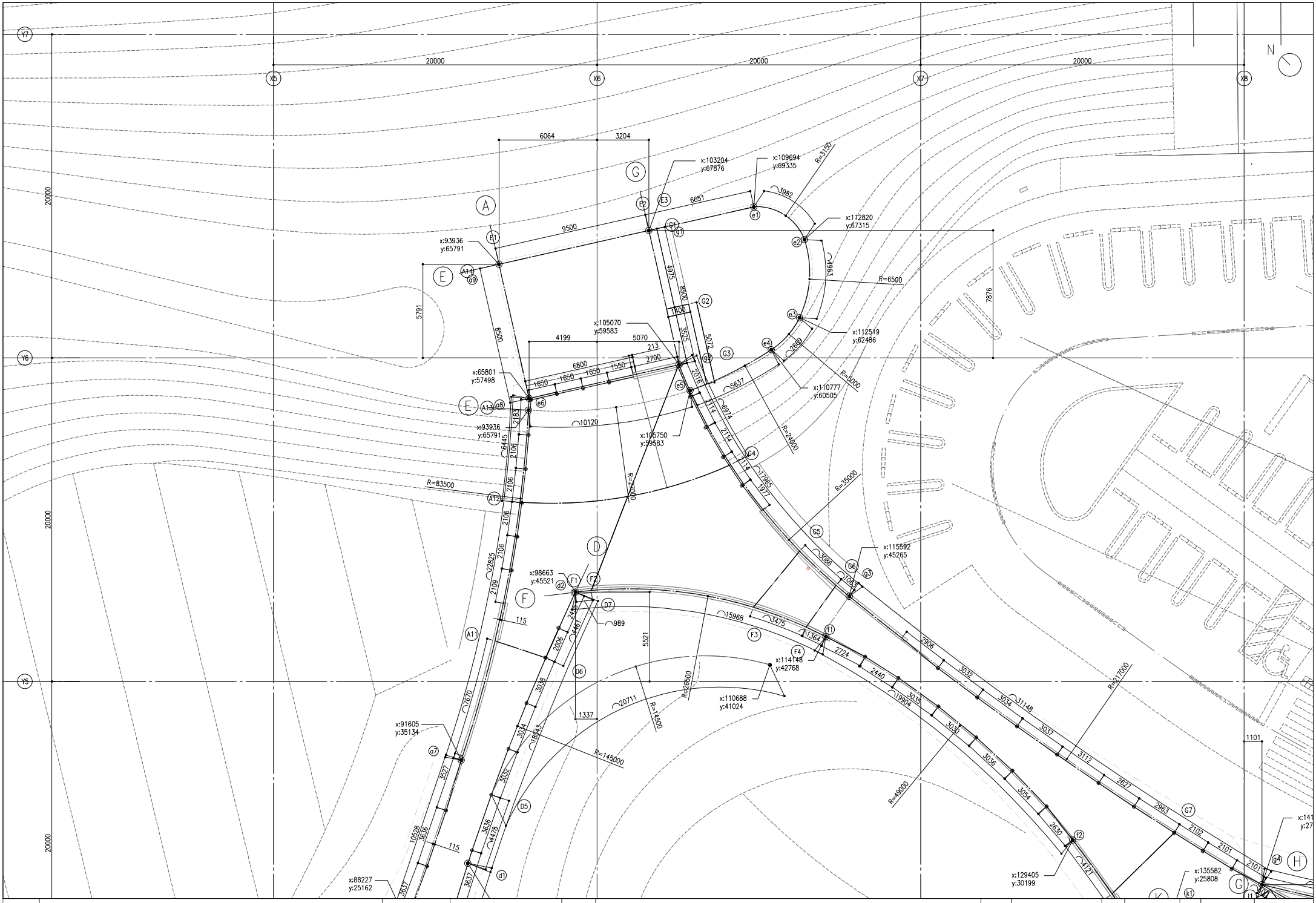
工事名	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設新築実施設計委託	共同企業体名称	o+h・産総設計JV	代表者	大西麻貴＋百田有希／o+h	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-10-1 TEL&FAX:03-6264-9876 一級建築士事務所 東京都知事登録第59514号 一級建築士第367943号 百田有希	図面名	芯線定義図−（平面図）	縮尺	A3 1:400	日付		No.	A018



工事名	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設新築実施設計委託	共同企業体名称	o+h・産紘設計JV	代表者	大西麻貴＋百田有希／o+h	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-10-1 TEL&FAX:03-6264-9876 一級建築士事務所 東京都知事登録第59514号 一級建築士第367943号 百田有希	図面名	屋根定義図	縮尺	A3 1:400	日付		No.	A019



工事名	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設新築実施設計委託	共同企業体名称	o+h・産絋設計JV	代表者	大西麻貴＋百田有希／o+h	〒103−0007 東京都中央区日本橋浜町3−10−1 一級建築士事務所 東京都知事登録第59514号	TEL&FAX:03−6264−9876 一級建築士第367943号 百田有希	図面名	RC躯体芯線定義図 （展示室2, 3）	縮尺	A3 1:200
日付		No. A020									



工事名	熊本地震震災ミュージアム体験・展示施設新築実施設計委託	共同企業体名称	o+h・産紘設計JV	代表者	大西麻貴＋百田有希／o+h	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-10-1 一級建築士事務所 東京都知事登録第59514号	TEL&FAX:03-6264-9876 一級建築士第367943号 百田有希	図面名	RC躯体芯線定義図 （展示室1）	縮尺	A3 1:200	日付		No. A021